

平成29年10月11日  
県南東部地域医療構想調整会議 資料16

# 岡山赤十字病院 公的医療機関等2025プラン

平成29年 9月 策定



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

岡山赤十字病院

## 目次

I	岡山赤十字病院の基本情報	1
II	構想区域の現状と課題	3
1	岡山県の地域医療構想の概要	3
2	県南東部保健医療圏における保健医療の現状	4
3	県南東部保健医療圏における課題	9
III	岡山赤十字病院の現状と課題	13
1	岡山赤十字病院の現状	13
(1)	基本理念	
(2)	施設基準	
(3)	主な診療実績の推移	
(4)	職員数	
(5)	特徴的な機能	
①	救命救急センター指標	
②	地域がん診療連携拠点病院指標	
③	地域医療支援病院	
④	基幹災害拠点病院	
(6)	手術、緊急手術、全身麻酔件数	
(7)	分娩数、帝王切開術	
(8)	疾病大分類別退院患者数、年齢別性別退院患者数	
(9)	政策医療（5 疾病・5 事業及び在宅医療）	
2	岡山赤十字病院の課題	30
(1)	地域医療構想の各種調査に基づく状況認識	
(2)	地域医療構想の推進を見据えた当院の主たる課題 救急医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、地域医療連携機能	
IV	今後の方針	35
1	地域において今後担うべき役割	35
(1)	救命救急センター	
(2)	地域がん診療連携拠点病院	
(3)	地域医療支援病院	
(4)	周産期医療・小児医療（女性医療を含む）	
(5)	精神疾患（認知症疾患医療センター）	
(6)	災害時における医療	
2	今後持つべき病床機能	41
3	その他見直すべき点	41
V	具体的な計画	42
1	4機能ごとの病床のあり方について	42
2	診療科の見直しについて	42
3	その他の数値目標について	43
VI	その他 病院機能に関する参考資料	45
	救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、在宅医療、 チーム医療、医療安全、看護師の養成	

## I 岡山赤十字病院の基本情報

医療機関名	岡山赤十字病院
開設主体	日本赤十字社
所在地	岡山市北区青江2丁目1番1号

許可病床数	500床 (ICU:12床、CCU:5床、救急病棟:24床、NICU:3床、 小児入院医療管理料:28床、緩和ケア病棟:20床)	
(病床の種別)	一般	500床
(病床機能別)	高度急性期	299床
	急性期	201床

稼働病床数	500床	
(病床の種別)	一般	500床
(病床機能別)	高度急性期	299床
	急性期	201床

診療科目 (標榜診療科) 36科 (平成29年4月1日現在)

総合内科、血液内科、糖尿病・内分泌内科、膠原病・リウマチ内科、腎臓内科、  
 消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、緩和ケア科、脳卒中科、  
 精神神経科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、  
 心臓血管外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、脳血管内治療外科、皮膚科、  
 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、形成外科、放射線科、  
 麻酔科、ペインクリニック科、歯科、救急科、病理診断科

### 認定・指定等

- ・救命救急センター、地域医療支援病院、開放型病院、基幹災害拠点病院、  
地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、  
岡山市認知症疾患医療センター、エイズ治療拠点病院、基幹型臨床研修病院、
- ・病院機能評価、人間ドック健診施設機能評価
- ・DPC II 群病院

### 院内センター機能

循環器センター、健康管理センター、糖尿病センター、リハビリテーションセンター、がんセンター、気胸センター、検査センター、手術センター、放射線センター、内視鏡センター、がん相談支援センター、鏡視下手術センター、自己免疫疾患センター、IVRセンター

### 付帯事業

岡山赤十字看護専門学校  
岡山赤十字病院院内保育園

平成 29 年度	職員数 (平成 29 年 4 月 1 日現在)				
	職員数	医師	看護職員	専門職	事務職員
常勤職員数	1,159	156	643	138	222
常勤換算数	1,188.98	162.06	650.87	140.25	235.8

#### ※医師について

医師 (前期臨床研修医 27 名を含む)、歯科医

#### ※看護職員について

看護師、助産師、保健師と付帯事業職員

#### ※専門職について

上記の医師、看護職員及び下記の事務職員以外の数

薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士、臨床心理士等

#### ※事務職員について

事務職員、看護助手、調理師、ボイラー技士等

## II 構想区域の現状と課題

### 1 岡山県の地域医療構想の概要

高齢化が進展し、医療・介護サービスの需要が増大していく中で社会保障制度を堅持していくためには、限られた社会保障財源を最大限有効に活用することが必要であり、医療の分野については、入院医療において患者それぞれの状態にふさわしい良質かつ適切な医療を効果的かつ効率的に提供する体制の構築が求められている。

岡山県では、「すべての県民がいきいきとした生活を送れるよう、県内どこに住んでいても質の高い保健医療サービスが効率的に受けられる体制の充実」を基本理念とする「第7次岡山県保健医療計画（平成29年9月時点）」を策定し、医療政策においても、「病院完結型医療」から、地域全体で治し、支える「地域完結型医療」への転換を進めることとしている。

そのため、岡山県は、計画の推進・実現に向けた取り組みとして、医療機能の分化・連携を進め、各医療機能に応じて必要な医療資源を適切に投入し、入院医療全体の強化を図ると同時に、退院患者の生活を支える在宅医療及び介護サービス提供体制を充実させていくことが必要であるとし、2025年における医療機能ごとの需要と必要量を含め、その地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進するため、次の項目を目指すべき医療提供体制と実現のための施策に据えた地域医療構想を策定している。

#### <目指すべき医療提供体制と実現のための施策>

##### ①医療の役割分担と連携

- ・病床の機能分化、連携を推進するための施設・設備の整備
- ・専門医確保が困難な地域の、高次医療機関との連携による質の高い医療提供体制整備
- ・ICTを活用した地域医療ネットワーク設備の整備

##### ②公的病院等の役割

- ・へき地医療や救急医療など、地域において必要とされる医療提供体制の確保
- ・「新公立病院改革プラン」に基づく適切な助言の実施

##### ③居宅等における医療の提供

- ・地域包括ケアシステム構築のため、他機関と連携し、在宅医療・介護サービスを推進
- ・関係団体と連携や取組みについて協議し、在宅医療提供体制の整備を推進

##### ④医療従事者の確保

- ・岡山大学及び広島大学等と連携した医師の確保・育成
- ・地域医療支援センターによる地域医療従事医師のキャリア形成等の医師確保対策
- ・女性医師、看護師等の勤務環境の改善や再就業支援等による医師・看護師等の確保

##### ⑤地域の実情を踏まえた検討

- ・地域医療構想調整会議等において、地域包括ケアシステムの構築、精神疾患と身体疾患を重複する患者への対応、認知症対策等を視野に入れ、参加者の区域、職域を柔軟に設定し、様々な観点で地域の実情を踏まえた議論が効果的に行われるよう努める。

## 2 県南東部保健医療圏における保健医療の現状

(1) 岡山県二次保健医療圏 (資料: 岡山県「第7次岡山県保健医療計画」)



### (2) 人口

#### ①人口の現状と将来推計

平成22年から平成52年までの年次別将来人口推計によると、当圏域の人口は圏内の市町全体にわたり減少していく傾向が見える。一方で、65歳以上及び75歳以上の人口は増加するため、高齢化が進んでいくことが予測される。

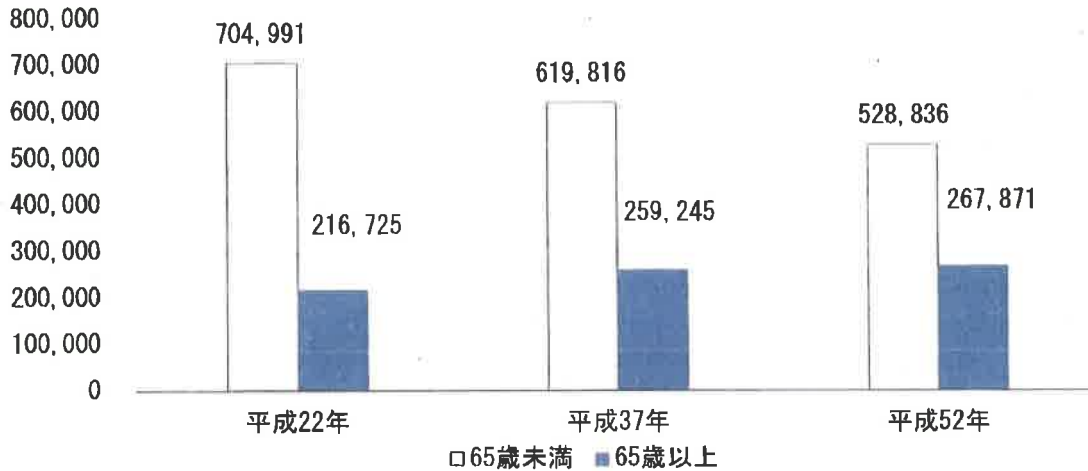
二次保健医療圏	市町村	総数 (単位: 人)			65歳以上 (単位: 人)			75歳以上 (単位: 人)		
		平成22年 (2010)	平成37年 (2025)	平成52年 (2040)	平成22年 (2010)	平成37年 (2025)	平成52年 (2040)	平成22年 (2010)	平成37年 (2025)	平成52年 (2040)
県南東部		921,716	879,061	796,707	216,725	259,245	267,871	108,672	156,931	153,225
	岡山市	709,584	698,536	651,328	153,392	190,766	208,621	75,848	113,956	116,560
	玉野市	64,588	54,926	43,571	19,180	21,094	17,919	9,523	13,516	11,140
	備前市	37,839	30,350	22,851	11,939	12,042	9,879	6,046	7,689	6,184
	瀬戸内市	37,852	32,796	27,053	10,843	11,859	11,064	5,735	7,275	6,614
	赤磐市	43,458	39,577	34,010	11,497	13,883	12,488	5,672	8,370	7,590
	和気町	15,362	12,605	9,821	5,090	5,139	4,300	2,781	3,355	2,691
	吉備中央町	13,033	10,271	8,073	4,784	4,462	3,600	3,067	2,770	2,446

(資料: 地域医療構想調整会議用参考資料1「二次保健医療圏、市町村別にみた年次別将来人口推計」)

②老年（65歳以上）人口の将来推移

将来的に人口は減少傾向にあり、人口総数に占める老年人口の割合が高まる。

県南東部保健医療圏の年齢構成区分別人口推移 (単位：人)



(資料：地域医療構想調整会議用参考資料1「二次保健医療圏、市町村別に見た年次別将来人口推計」)

(3) 保健医療資源の状況

①病院施設数及び病院病床数(平成27年10月1日現在)

当圏域の病院数は77施設で、病床数は14,730床である。人口10万人対病床数は1,597.7であり、岡山県の1,499.5及び全国の1,232.1より高くなっている。

二次保健医療圏	病院施設数			病院病床数					
	一般病院	精神科病院		一般病床	療養病床	精神病症	結核病床	感染症病床	
県南東部保健医療圏	77	70	7	14,730	9,822	1,652	3,167	81	8
	8.4	7.6	0.8	1,597.7	1,065.4	179.2	343.5	8.8	0.9
岡山県	164	147	17	28,813	18,321	4,722	5,608	136	26
	8.5	7.7	0.9	1,499.5	953.5	245.7	291.9	7.1	1.4
全国	8,480	7,416	1,064	1,565,968	893,970	328,406	336,282	5,496	1,814
	6.7	5.8	0.8	1,232.1	703.4	258.4	264.6	4.3	1.4

(資料：厚生労働省「平成27年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(備考：上段は実数、下段は人口10万人対)

②診療所施設数及び診療所病床数(平成27年10月1日現在)

二次保健医療圏	一般診療所			歯科診療所
	施設数	病床数	うち療養病床数	施設数
県南東部保健医療圏	871	1,165	202	535
	94.5	126.4	21.9	58.0
岡山県	1,659	2,448	406	996
	86.3	127.4	21.1	51.8
全国	100,995	107,626	10,657	68,737
	79.5	84.7	8.4	54.1

(資料：厚生労働省「平成27年医療施設調査」、岡山県統計分析課「岡山県毎月流動人口調査」)

(備考：上段は実数、下段は人口10万人対)

③医師、歯科医師、薬剤師数（登録者数）（平成 26 年 12 月 31 日現在）

医師数は 3,190 人で、人口 10 万対 347.2 と岡山県の 299.4 及び全国の 244.9 を上回っており、看護師数も人口 10 万人対で見ると 1,156.4 と岡山県の 1,087.6 及び全国の 855.2 より高いが、保健師と准看護師は岡山県の値を下回っている。

二次保健医療圏	医師	歯科医師	薬剤師
県南東部	3,190	1,063	2,251
保健医療圏	347.2	115.7	245.0
岡山県	5,760	1,715	3,937
	299.4	89.1	204.6
全国	311,205	103,972	288,151
	244.9	81.8	226.7

（資料：地域医療構想調整会議用参考資料 1「医療提供体制の現状」）

（備考：上段は実数、下段は人口 10 万人対）

④保健師、助産師、看護師、准看護師数（登録者数）（平成 26 年 12 月 31 日現在）

二次保健医療圏	保健師	助産師	看護師	准看護師
県南東部	428	241	10,624	2,272
保健医療圏	46.6	26.2	1,156.4	247.3
岡山県	936	453	20,926	5,119
	48.6	23.5	1,087.6	266.1
全国	48,452	33,956	1,086,779	340,153
	38.1	26.7	855.2	267.7

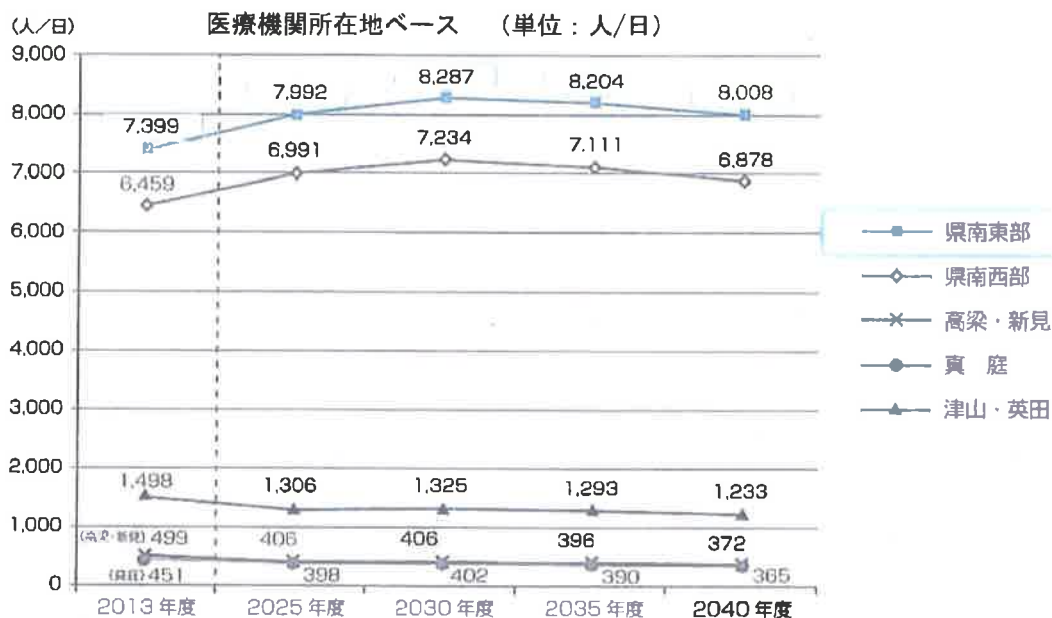
（資料：地域医療構想調整会議用参考資料 1「医療提供体制の現状」）

（備考：上段は実数、下段は人口 10 万人対）

（4）患者（入院患者）の状況

①将来の入院患者数の推計

岡山県が、地域医療構想策定支援ツール（国が配付）により推計した将来の入院患者数の推移では、県南東部は増加傾向であるものの、2030 年をピークに減少に転じる。



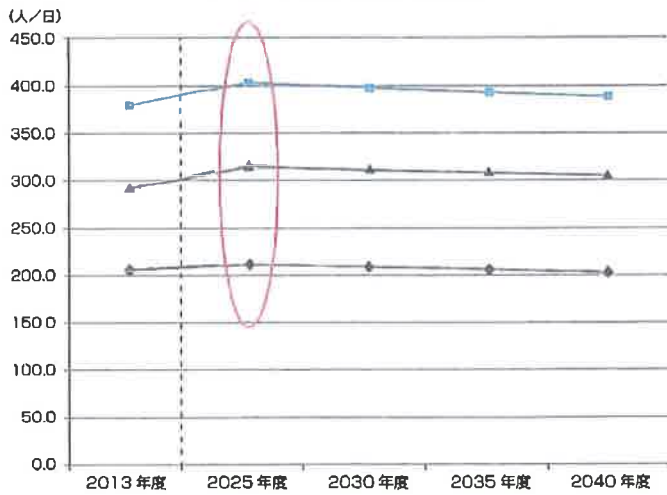
（資料：第 7 次岡山県保健医療計画「入院患者数の推計」）



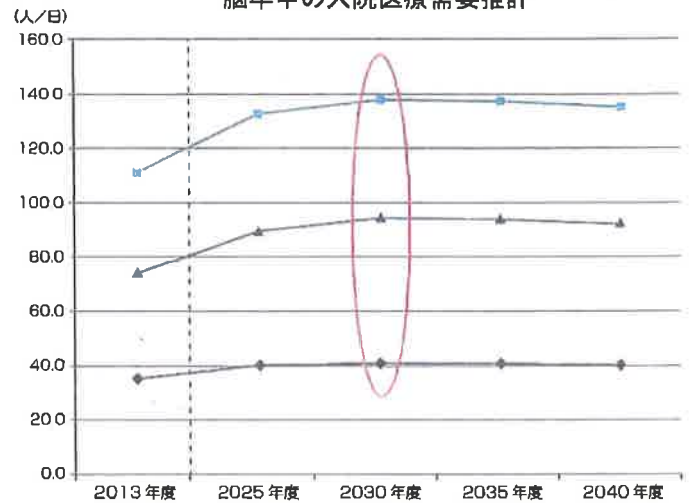
② 県南東部保健医療圏の疾病別入院医療需要の推計

県南東部保健医療圏について、主な疾病別に2040年度までの入院医療需要を推計したものである。  
 がんについては、2025年まで微増するものの、以後は微減の傾向となる。  
 脳卒中については、2030年まで増加傾向にあり、以後は横ばいとなる。  
 成人肺炎については、増加傾向ではあるが、2030年をピークとして以後微減となる。  
 大腿骨骨折は、2030年まで増加傾向であり、以後横ばいになる。

がんの入院医療需要推計

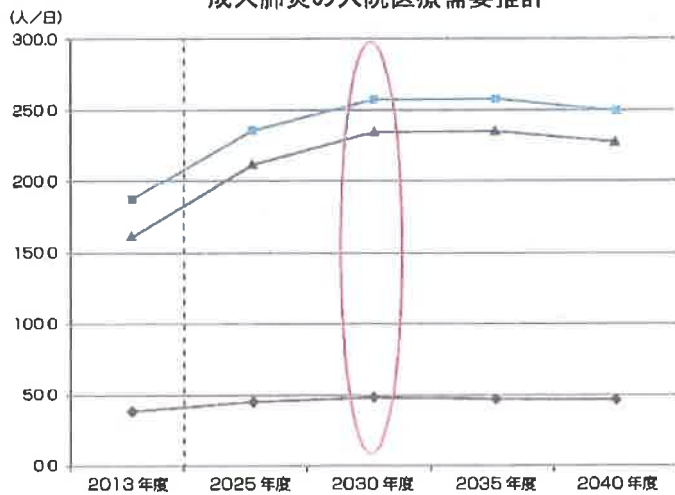


脳卒中の入院医療需要推計

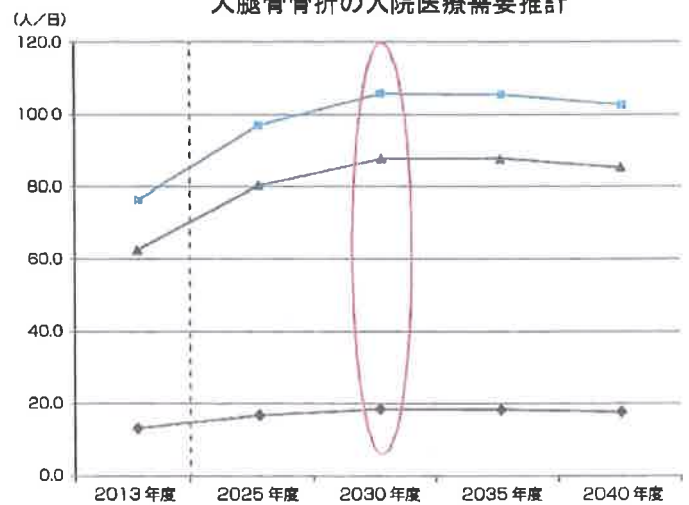


- ◆ 高度急性期
- 急性期
- ▲ 回復期

成人肺炎の入院医療需要推計



大腿骨骨折の入院医療需要推計



(資料：第7次岡山県保健医療計画「入院患者数の推計」)

③入院患者の受療動向（一般病床及び療養病床）

平成 27 年及び 29 年の調査では、県南の 2 保健医療圏において自圏内の受療がともに 90%を超えているが、津山・英田で 80%代、真庭で 70%代、最も低い高梁・新見では 60%代となっており、県北から県南への患者の流出が見てとれる。

<平成 29 年>（岡山県医療推進課調べ：平成 29 年 1 月 18 日時点）

（単位：％）

受療地	住所 地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏		92.43	5.73	12.66	11.87	11.79	58.81
県南西部保健医療圏		6.82	94.08	19.32	4.43	2.40	35.98
高梁・新見保健医療圏		0.40	0.09	63.28	1.11	0.00	0.62
真庭保健医療圏		0.07	0.05	4.52	75.32	2.05	0.62
津山・英田保健医療圏		0.27	0.05	0.23	7.28	83.77	3.97
計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

<平成 27 年>（岡山県医療推進課調べ：平成 27 年 5 月 13 日時点）

（単位：％）

受療地	住所 地	県南東部	県南西部	高梁・新見	真庭	津山・英田	県外
県南東部保健医療圏		90.26	5.79	12.95	14.58	11.85	59.07
県南西部保健医療圏		8.27	94.03	20.81	6.25	3.00	36.27
高梁・新見保健医療圏		0.48	0.15	62.31	0.57	0.05	0.93
真庭保健医療圏		0.12	0.00	3.70	72.92	1.74	0.53
津山・英田保健医療圏		0.86	0.03	0.23	5.68	83.36	3.20
計		100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

④地域別の病床利用率・平均在院日数

都道府県別の病床利用率は、岡山県の 74.1%に対し、全国が 80.1%となっている。  
また、全病床の平均在院日数では、岡山県の 27.7 日に対し、全国が 29.1 日となっている。

二次保健医療圏	病床利用率（％）				平均在院日数（日）			
		総数				総数		
		一般病床	療養病床	精神病床		一般病床	療養病床	精神病床
県南東部保健医療圏	69.5	64.7	85.2	27.3	17.9	132.7		
県南西部保健医療圏	77.3	74.9	84.5	25.5	17.3	118.0		
高梁・新見保健医療圏	82.8	79.6	78.2	42.6	19.2	110.7		
真庭保健医療圏	75.4	72.0	84.9	31.3	17.6	73.1		
津山・英田保健医療圏	84.0	83.7	86.6	33.7	17.0	112.4		
岡山県	74.1	70.0	84.6	27.7	17.6	118.4	236.4	
全国	80.1	75.0	88.8	29.1	16.5	158.2	274.7	

（資料：厚生労働省「平成 27 年病院報告」）

### 3 県南東部保健医療圏における課題

#### (1) 医療の役割分担と連携

○県南東部については、必要病床数と比較して高度急性期・急性期の病床数が多く、回復期の病床数が少ないことから、実際に提供している医療を検証した上で、必要な病床への転換等を図る必要がある。

○2025年（平成37年）に向けて、病床の機能分化と連携、在宅医療・介護の推進等、効率的かつ質の高い医療提供体制の構築と地域包括ケアシステムの構築が急務の課題である。

#### 構想区域別病床数の現況及び推計の比較

構想区域	区分	平成28年4月1日現在の病床数 〔病床機能報告（調整後）〕			必要病床数 〔地域医療構想策定支援ツールから〕			②-①	②/①
		病院	診療所	合計①	H25 (2013)	H37 (2025)②	H52 (2040)③		
県南東部	高度急性期	2,332	—	2,332	1,125	1,187	1,146	▲1,145	50.9%
	急性期	4,005	503	4,508	2,968	3,335	3,318	▲1,173	74.0%
	回復期	1,280	121	1,401	2,500	2,927	2,969	1,526	208.9%
	慢性期	2,238	282	2,520	2,163	2,029	2,052	▲491	80.5%
	無回答	365	254	619				▲619	
	計	10,220	1,160	11,380	8,756	9,478	9,485	▲1,902	83.3%

※1 平成28年4月1日現在の病床数は、許可病床数の数値に合わせるため、平成27年7月1日現在の病床機能報告の数値をもとに、岡山県が調整した数値。

※2 H25(2013)、H37(2025)、H52(2040)の数値は、厚生労働省配付の地域医療構想策定支援ツールの医療機関所在地別、特例による数値。

(資料：地域医療構想調整会議用参考資料1「構想区域別病床数の現況及び推計の比較」)

#### (2) 公的病院等が担う役割

○公的病院は、当圏域に18施設あり、圏域内の病床数の約30%を占めている。基幹病院としての役割を果たすことはもとより、地域の特性に応じて、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療、精神疾患の医療等の分野で中心的役割を担う必要がある。

○地域医療支援病院は、切れ目のない医療提供体制と在宅医療を推進していくため、紹介患者に対する医療提供等を通じて、かかりつけ医を支援する役割を担う必要がある。

#### (3) 5疾病・5事業及び在宅医療の医療連携体制

##### ①がん

- ・当圏域のがんによる死亡の部位別割合は、平成27年では第1位が気管・気管支・肺で23.8%、第2位が胃で13.2%、第3位が肝・肝内胆管で9.5%となっている。肝・肝内胆管の標準死亡比（平成20年～24年）が岡山市の女性を除いて100より高い。

- ・がん検診受診率について、乳がんや子宮頸がんの受診率が岡山県を下回っている。

- ・当圏域には、大学病院の「県がん診療連携拠点病院」があるほか、「地域がん診療連携拠点病院」が3施設（当院を含む）、県独自に認定している「がん診療連携推進病院」が3施設あり、県内で

最もがん医療が充実している圏域である。

- ・がん診療連携拠点病院等では、県民のがん相談に応じるとともに、地域の医療関係者に対し、「地域連携クリティカルパス」の活用などによる標準治療や緩和ケアの普及を行っている。
- ・がんの診療に従事する医師は、緩和ケア研修を受講する必要があるが、未受講の医師が多く残っているため、受講の機会を多く設ける必要がある。

## ②脳卒中

- ・当圏域の平成 20～24 年の脳血管疾患の標準死亡比は、男性 94.8、女性 88.5 で、平成 27 年の死因別死亡の第 4 位で、全死亡の 8.1%を占めている。
- ・専門的な診療（t-PA 静脈内投与等）が 24 時間可能な急性期医療機関は、県内に 14 施設あるが、当圏域には 9 施設（当院を含む）ある。
- ・これらの医療機関と回復期リハビリテーション医療機関等が円滑に医療連携できるよう、当圏域の医療機関が中心となり「もも脳ネット」を結成し、圏域内で統一した「もも脳ネット連携パス」を作成している。また、医療関係者が主体となって、パスの運用や連携の在り方等について定期的に検討会を開催し、地域連携を推進している。

## ③急性心筋梗塞

- ・当圏域における急性心筋梗塞の標準化死亡比（平成 20 年～24 年）は男性 124.0、女性 113.6 と 100 を超えている。急性心筋梗塞は、生活習慣病と関連が深く、高血圧症・糖尿病・脂質異常症等の予防や喫煙等生活習慣の改善を推進する必要がある。
- ・また、AED（自動体外式除細動器）の使い方を含む心肺蘇生法の普及啓発も必要である。
- ・平成 29 年 4 月 1 日現在の急性期医療機関は、県内に 12 施設あるが、そのうち当圏域に 9 施設（当院を含む）あり、回復期医療機関は 15 施設のうち 10 施設、再発予防医療機関は 55 施設のうち 27 施設が当圏域内の施設となっている。
- ・急性心筋梗塞医療連携クリティカルパスの運用等により、これらの医療機関の連携を進めるとともに、医療連携に参加する医療機関を増加させる必要がある。

## ④糖尿病

- ・地域連携クリティカルパスを作成し、糖尿病の医療連携の推進を図り、患者の病状・病態にあった医療機能を担う医療機関の整備、情報提供を推進している。
- ・平成 29 年 3 月 31 日現在の糖尿病専門治療機関は、県内に 30 施設あるが、そのうち当圏域に 15 施設（当院を含む）ある。
- ・糖尿病の医療連携を進めるため、機能別の届出医療機関を増やすとともに、かかりつけ医と歯科も含めた専門治療医療機関等の切れ目のない医療連携体制の構築が必要である。

## ⑤精神疾患

- ・県内における「認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ」以上の認知症の人の数は、平成 24 年度時点で約 62,000 人と推計され、平成 37 年度には約 87,000 人に増加すると見込まれている。
- ・医療機関を受診している認知症の患者数は約 12,000 人、医療機関に入院している認知症の患者数は約 14,000 人と推計され、認知症の大部分を占めるアルツハイマー病や脳血管性認知症は、生活習慣病（高血圧症、糖尿病、脂質異常症など）との関連があるとされている。
- ・当県では、7 医療機関（当院を含む）が認知症疾患医療センターに指定され、周辺症状や身体合併症を伴う認知症患者の受入体制を整備し、認知症の鑑別診断や、認知症に関する研修会等を実施している。
- ・認知症による新規入院患者の 2 か月以内退院率は 17.9%であり、全国（30.3%）と比べ、退院までに要する期間が長くなっている。

#### ⑥救急医療

- ・当圏域では、岡山赤十字病院が救命救急センターとして、また岡山大学病院が高度救命救急センターとして、重症患者や複数科にわたる重篤な救急患者等を受け入れるなど三次救急医療を提供している。
- ・二次救急医療体制は、病院群輪番制病院の 6 施設と 26 の救急病院当番制病院により入院や手術を必要とする重症救急患者の診療に対応している。
- ・救急車による患者搬送については、平成 27 年に 5 消防本部（局）で 36,994 人を搬送している。出動件数は、平成 22 年の 33,768 件に比較して、平成 27 年は 38,869 件と大幅に増加しており、平成 27 年の出動のうち急病が 23,045 件で 57.8%、交通事故が 4,042 件で 10.1%、一般負傷が 5,596 件で 14.0%、これらで全体の 81.9%となっている。
- ・AED については、県内の様々な施設への設置が進んでおり、平成 26 年 3 月末で、3,941 台が設置さ、岡山赤十字病院や各消防本部において、AED の使用等救急講習会を開催されている。

#### ⑦災害時における医療

- ・災害拠点病院として、県内の 10 カ所の病院が指定され、当圏域では、基幹災害拠点病院に岡山赤十字病院が、地域災害拠点病院に 4 施設（岡山済生会総合病院、国立病院機構岡山医療センター、岡山大学病院、岡山市立市民病院）が指定されている。
- ・生物及び化学物質による災害等に対応できるよう、救命救急センター（岡山赤十字病院）には防護服、防毒マスク、除染テント及び簡易劇毒物検査キットを整備している。
- ・県内の災害拠点病院の耐震化率は 44.4%で全国平均（82.2%）を大きく下回っている。
- ・岡山県では全ての災害拠点病院が DMAT を保有しており、113 名がおかやま DMAT 隊員として登録され（平成 27 年 4 月 1 日現在）、DMAT が災害の急性期から迅速に活動できるよう、県と災害拠点病院との間で DMAT の出動に関する協定を締結している。
- ・おかやま DMAT 隊員として、現在、21 チーム（10 病院）が厚生労働省の研修を修了しているが、さらに DMAT 隊員の養成確保に努める必要があり、DMAT が関係機関と連携しながら災害発生後の急性期から迅速かつ適切な活動ができるような体制の整備を進める必要がある。

#### ⑧へき地の医療

- ・県北の 3 保健医療圏（高梁・新見・真庭、津山・英田）の他、県南 2 保健医療圏でも、岡山市、倉敷市及び早島町を除く 12 市町で人口 10 万人当たりの医師数が全国平均を下回り、地域偏在が見られることから、地域の状況に応じた医師の確保が必要となっている。
- ・当圏域のへき地医療拠点病院は 3 施設（岡山赤十字病院・岡山済生会総合病院・赤磐医師会病院）、へき地診療所は 12 施設ある。当圏域には無医地区が 2 市 4 地区、無医地区に準ずる地区も 2 市 5 地区あり、その多くが山間部と島に集中し、少子高齢化が進んでいる。
- ・へき地は高齢者が多いことから、円滑な搬送体制はもとより、かかりつけ医と救急医療機関等と医療に係る情報の共有等の連携体制を整備する必要がある。

#### ⑨周産期医療

- ・本県の周産期死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率は長期的に低下傾向にあり、県内の出生総数が減少傾向にある中で、低出生体重児（2,500g 未満）の出生数は横ばい傾向であることから、低出生体重児の出生割合は増加傾向にある。
- ・極低出生体重児（1,500g 未満）の出生割合も増加傾向にあることから、こうしたハイリスク新生児を円滑に受け入れる体制が必要となっている。
- ・当圏域には、岡山市内に 1 カ所の総合周産期母子医療センターとともに 2 カ所の地域周産期母子

医療センター（当院を含む）があり、圏域の産科医療機関も岡山市内に集中している。

- ・当圏域における出生数は減少傾向にあるものの、平成 27 年の出生率は人口千対 8.4 で、岡山県より 0.3 ポイント高くなっている。

#### ⑩小児医療（小児救急医療を含む）

- ・県内の満 18 歳未満のけがや病気による救急搬送患者は、年間約 6,400 人であるが、約 8 割が軽症患者である。
- ・小児救急医療実態調査によると、休日や夜間における小児救急患者のうち、入院の必要な患者は約 4%と、軽症の場合でも二次・三次救急医療を担う医療機関を受診しており、また、患者は小児救急医療支援病院等に集中する傾向がある。
- ・平成 28 年の当圏域の小児傷病者の救急搬送は、2,777 人で、その 76.6%は軽症である。また、平成 28 年度の小児救急医療電話相談は、岡山県全体で 15,897 件と相談件数が減少傾向であるが、当圏域では 8,513 件と相談件数が増加している。
- ・小児救急の患者が二次救急施設に集中する傾向にあり、初期救急医療体制の充実や二次救急医療施設における小児科医の確保が課題となっている。

#### ⑪在宅医療

- ・65 歳以上の高齢者人口が増加しており、団塊の世代が 75 歳以上となる 2025 年（平成 37 年）以降は、医療・介護の需要がさらに増加する見込みである。
- ・岡山県が平成 27 年に実施した県民満足度調査において、介護が必要な状態になった場合でも自宅で過ごしたいと希望する人が 27.0%あったことから、在宅医療の充実と介護を含めたサービス体制を構築する必要がある。
- ・「もも脳ネット」による医療連携体制の構築で、脳卒中、大腿骨骨折患者の早期在宅復帰が進んでいる。今後も、がん、急性心筋梗塞を含めた在宅パスを活用する地域連携の充実が必要である。
- ・在宅医療の推進には、在宅療養支援診療所、在宅療養支援病院の充実を図るとともに、訪問看護ステーションや地域包括支援センターの役割・機能の充実が必要である。

（資料：第 7 次岡山県保健医療計画、県南東部地域医療構想調整会議 平成 29 年度第 1 回「会議資料 4」）

#### （4）保健医療従事者の確保

- ・本県の人口 10 万人対の医療従事者数は、県全体では医師、看護師とも全国平均を上回り当圏内でも同様であるが、地域別にみると医師の偏在も見られる。救急医療や地域医療の確保に影響を与えているため、適切な医療を継続的に提供していくためには、医師や看護師等の人材確保に積極的に取り組んでいく必要がある。
- ・当圏域での人口 10 万対の看護職員数は、助産師、看護師とも岡山県を上回っているが、今後、少子高齢社会の進行、地域包括ケアの推進、医療技術の高度化等により、看護に対するニーズが一層高度化、多様化していくことから、看護職員の確保と資質の向上が求められている。

（資料：第 7 次岡山県保健医療計画）

### Ⅲ 岡山赤十字病院の現状と課題

#### 1 岡山赤十字病院の現状

##### (1) 基本理念

###### 理 念

信頼され親しまれる病院に 手をつなぐ温もり -地域とともに-  
「愛と心」がかよう医療を皆さまに提供します

###### 基本方針

1. 患者の皆さまの権利と意思を尊重し、十分な説明と同意に基づいた患者中心の医療を実践します。
2. 地域の中核病院として、高度で安全な急性期医療の提供に努めます。
3. 地域医療機関等との連携を密にし、患者の皆さまに適した医療を提供します。
4. 救急救命センター、地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実に努めます。
5. 災害に対応した医療救護活動を積極的に行います。
6. 優秀な人材を確保し、次代の医療を担う人材の育成に努めます。
7. 良質な医療活動を遂行するため、医療施策に沿って健全な病院運営に努めます。

##### (2) 施設基準

救命救急センター、地域母子周産期センター等の高度急性期医療に関係する特定入院料等のほか、地域がん診療連携拠点病院や地域医療支援病院、認知症疾患医療センター等、多分野にわたる診療機能に関して施設基準の届出を行っている。

###### ①届出入院基本料・特定入院料等

- ・一般病棟7対1入院基本料
- ・救命救急入院料1 (CCU)
- ・救命救急入院料3 (救急)
- ・救命救急入院料4 (ICU)
- ・新生児特定集中治療室管理料2 (NICU)
- ・小児入院医療管理料2
- ・緩和ケア病棟入院料

###### ②基本診療料 (①以外のもの)

- ・総合入院体制加算2
- ・超急性期脳卒中加算
- ・ハイリスク妊娠管理加算
- ・ハイリスク分娩管理加算
- ・退院支援加算1
- ・認知症ケア加算1
- ・精神疾患診療体制加算 他16件

###### ③特掲診療料

- ・地域連携小児夜間・休日診療料2
- ・開放型病院共同指導料
- ・ハイリスク妊産婦共同管理料
- ・がん治療連携計画策定料
- ・在宅患者訪問看護・指導料 他87件

(3) 主な診療実績の推移

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
病床稼働率	83.2%	82.5%	81.7%	82.3%
平均在院日数	12.5 日	12.0 日	11.7 日	11.5 日
延入院患者数	151,762 人	150,641 人	149,507 人	150,110 人
新入院患者数	11,813 人	12,119 人	12,230 人	12,454 人
1 日当たり新入院患者数	32.4 人	33.2 人	33.4 人	34.1 人
予定入院紹介有患者数	2,322 人	2,968 人	3,311 人	3,603 人
延外来患者数	250,158 人	246,184 人	262,458 人	264,568 人
1 日当たり入院患者数	415.8 人	412.7 人	408.5 人	411.3 人
1 日当たり外来患者数	1,025.2 人	1,009.0 人	1,085.3 人	1,088.8 人
初診紹介患者数	11,135 人	11,729 人	12,729 人	12,681 人
初診患者数	38,640 人	35,528 人	35,091 人	31,672 人
救急外来受診者数	28,941 人	26,175 人	26,700 人	24,653 人
救急車搬入患者数	4,367 人	4,227 人	4,443 人	4,384 人
救急入院患者数	4,302 人	4,435 人	4,489 人	4,660 人
ヘリコプター収容回数	31 回	17 回	22 回	23 回
紹介患者数	12,079 人	10,536 人	11,353 人	11,184 人
逆紹介患者数	17,084 人	17,221 人	18,035 人	17,217 人
紹介率	55.6%	56.8%	61.9%	68.8%
逆紹介率	78.7%	92.8%	98.4%	105.9%
入院手術（手術室外を含む）	7,047 件	6,731 件	6,632 件	6,582 件
外来手術（手術室外を含む）	3,582 件	3,805 件	3,908 件	3,820 件
手術件数（手術室のみ）	5,432 件	5,362 件	5,500 件	5,246 件
緊急手術（手術室のみ）	1,318 件	1,318 件	1,367 件	1,321 件
全身麻酔件数	3,122 件	3,094 件	3,098 件	2,967 件
分娩件数	215 件	224 件	266 件	284 件
帝王切開	79 件	66 件	78 件	71 件
放射線治療件数	4,668 件	3,633 件	3,696 件	4,699 件
外来化学療法実施人数	3,544 人	3,052 人	3,557 人	4,023 人



(4) 職員数 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

職員数： 1,220 名 ( 常勤 1,159 名 非常勤 61 名 )

※職種別等内訳

医 師	180 名 ( 常勤 156 名 非常勤 24 名 )
看 護 師	644 名 ( 常勤 634 名 非常勤 10 名 )
薬 剤 師	27 名 ( 常勤 27 名 )
放 射 線 技 師	22 名 ( 常勤 22 名 )
検 査 技 師	33 名 ( 常勤 32 名 非常勤 1 名 )
理学療法士	13 名 ( 常勤 13 名 )
作業療法士	4 名 ( 常勤 4 名 )
言語聴覚士	3 名 ( 常勤 3 名 )
他 専 門 職	28 名 ( 常勤 27 名 非常勤 1 名 )
事務職員	169 名 ( 常勤 154 名 非常勤 15 名 )
看護助手他	71 名 ( 常勤 65 名 非常勤 6 名 )
看護学校	13 名 ( 常勤 12 名 非常勤 1 名 )
院内保育園	13 名 ( 常勤 10 名 非常勤 3 名 )

※看護学校には、基本情報で看護職員、事務職員に含めた看護師 (常勤 9 名、非常勤 1 名) 及び事務職員 (常勤 3 名) を別掲している。  
※院内保育園には基本情報で専門職に含めた保育士 (常勤 10 名、非常勤 3 名) を別掲している。

(5) 特徴的な機能

- ① 当院は、「救命救急センター」として、岡山県南東部保健医療圏の三次救急医療を 24 時間体制で担っており、救命救急センターの専任医師、看護師をはじめ、多職種のスタッフと全診療科の支援を受け、緊急かつ高度な医療提供を行っている。手術センターで対応する緊急手術や ICU における麻酔科医師による集中治療管理等、しっかりとしたバックアップ体制を整備しており、来られる患者を断らないという姿勢を大切に様々な疾患の患者を受け入れている。
- ② また、「地域がん診療連携拠点病院」として、専門的かつ高度な医療を提供していることが大きな特徴である。当院のがん治療は、外科的手術はもちろんのこと、最新装置による放射線治療や認定看護師が携わる化学療法等の専門治療を行うとともに、がん患者の不安や苦痛を和らげるための緩和ケア治療を行っている。特に、県内唯一の独立型緩和ケア病棟による入院療養は、患者や家族から非常に感謝されている。
- ③ 「地域医療支援病院」として当院が行う活動は、地域の人々のニーズに基づく紹介・逆紹介の推進、地域の医療機関等との施設・設備の共同利用、医療従事者の研修等多岐にわたるが、現在、岡山県が推進する地域医療ネットワーク【晴れやかネット】を活用した地域の病院やかかりつけ医の先生方との連携・情報共有を強化しているところである。
- ④ 当院は、日本赤十字社の事業を担う医療施設として、「災害時における医療」を重要な役割に位置付けている。岡山県の基幹災害拠点病院であり、かつ災害対応を担う赤十字病院であることから、災害発生時には、自院の診療体制を確保しつつ、他医療機関の支援を行う必要があるため、院内の災害対応能力強化とともに、県内外の災害拠点病院や日赤各施設との訓練等を通じた連携強化を図っている。

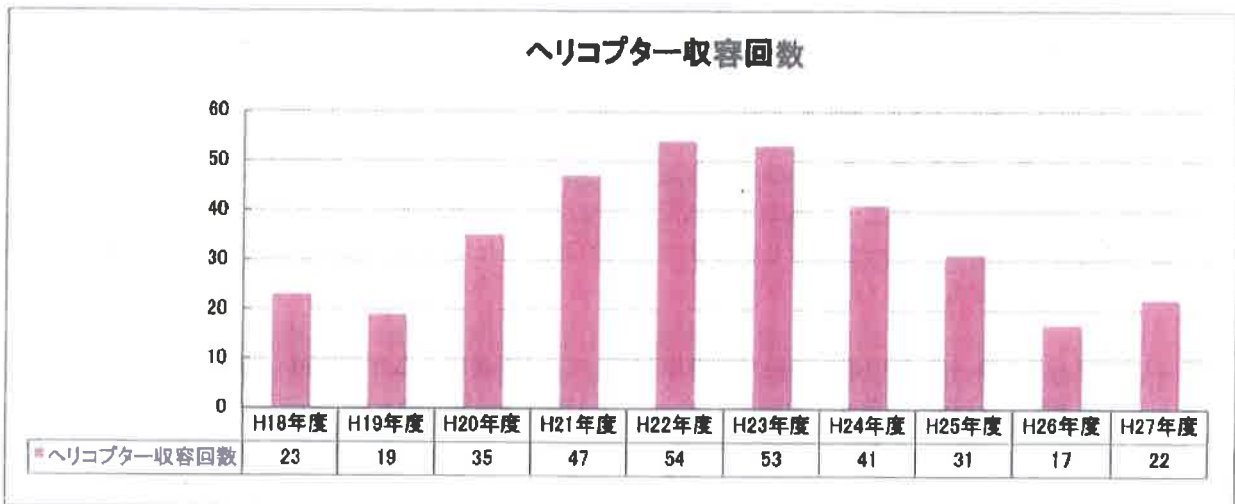
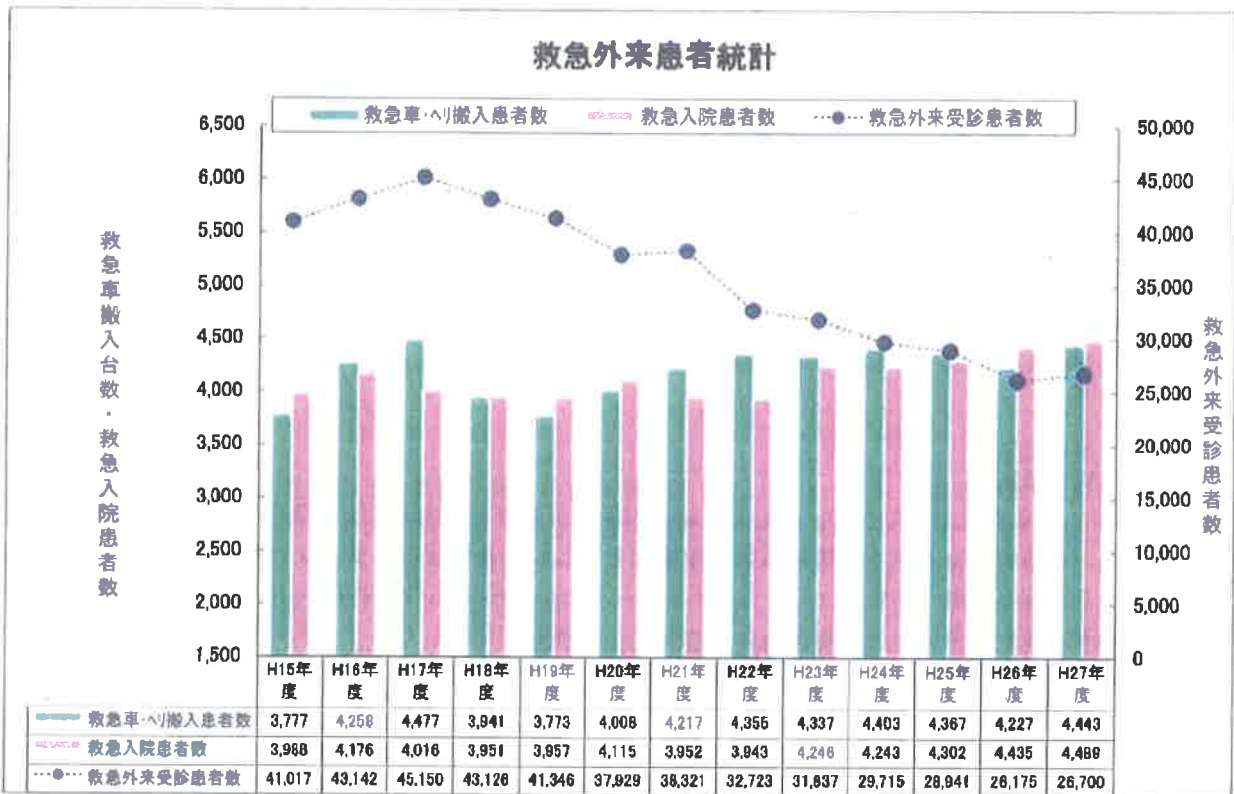
(5) ①救命救急センターに関する指標

当院は昭和 58 年 4 月に救命救急センターの指定を受けて以来、平成 12 年 11 月には救急外来・救急病棟・健康管理センターを有するセンター棟を新設し、岡山市及び県南東部を中心に救急医療を行なっている。

患者数のピークは平成 17 年度の 45,150 人であり、平成 15 年からは常に年間 40,000 人を超えていた。平成 20 年 12 月に時間外選定療養費の徴収を開始して以降、患者数は減少してきており、平成 22 年 9 月の同療養費増額、また平成 23 年 12 月の小児への同療養費対象拡大により、平成 26 年度には患者数 26,175 人とピーク時と比べて適切な水準と言える程度まで減少することになった。

一方、救急車搬入台数は、一時 4,000 台/年間を割ったが、最近では復活しており、救急外来からの入院も以前より増加傾向にある。

いわゆる「コンビニ受診」といわれる緊急性のない軽症の患者の受診が抑制され、中等ないし重症の救急患者への対応にシフトが進み、救命救急センターとしての本来の姿に近づいたと考えている。



(5) ②地域がん診療連携拠点病院に関する指標

＜がん登録件数、外科5大がん手術件数、その他診療科のがん手術件数＞

当院のがん登録件数は年々増加しており、新規に診療するがん患者が増加している。

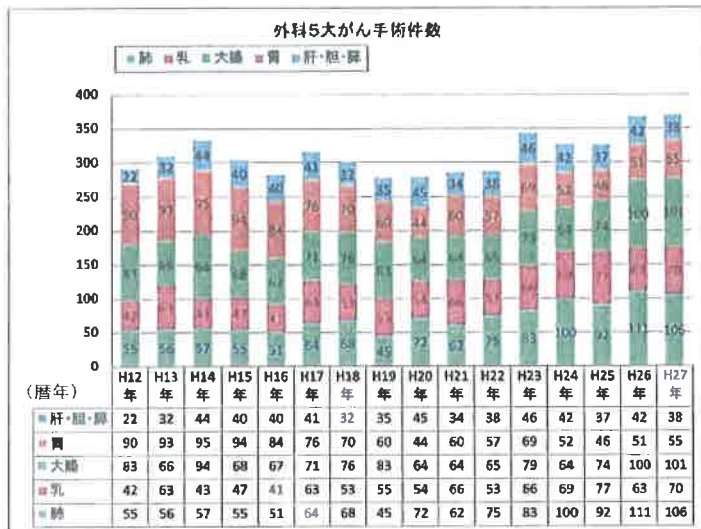
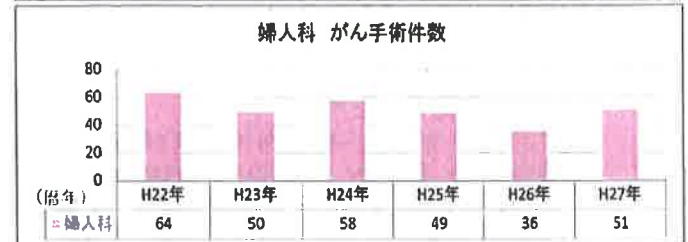
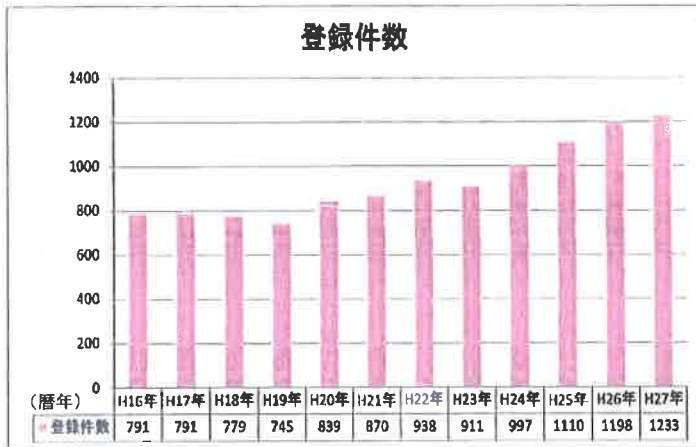
また、当院で手術を行った5大がん（肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、肝・胆・膵がん）の症例数の推移では、平成12年当時は年間55例だった肺がんが平成26年には111例と倍以上に増加した。どのがんも増加傾向にあるが、胃カメラにより、早期胃がんが多く発見されるようになると、消化器内科医による内視鏡的粘膜切除で治る症例が増加して、胃がんの外科手術件数が減少している。

泌尿器科の癌の手術の多くは膀胱癌であり、中でも経尿道的腫瘍切除術と言われる内視鏡の手術が殆どである。前立腺癌に対しても2012年以降は腹腔鏡下手術を導入しており、できる限り侵襲性の低い手術が行われている。

産婦人科における平成27年（1/1-12/31）のがん手術件数は51例であり、内訳は子宮頸癌3・CIN3（子宮頸部高度異形上皮～上皮内癌）24・子宮体癌13・卵巣癌11であった。最近の傾向として、子宮体癌、CIN3症例の増加傾向が目立っている。

皮膚科による悪性腫瘍手術件数は、平成27年に23例実施された。

耳鼻咽喉科では、頭頸部癌が全癌に占める割合は5%程度であり、各部位による区分の中では喉頭癌、咽頭癌、口腔癌が多く発生している。治療法は癌発生部位と進行度、年齢、全身状態などにより、手術、放射線療法、化学療法、それらの組み合わせから選ばれるが、当院では、放射線療法と化学療法を組み合わせた治療を行う症例が多くなっている。グラフの手術件数は喉頭癌、咽頭癌、口腔癌の件数を示しているが、これら三癌以外に頭頸部癌の手術も別に行っている。



(5) ②地域がん診療連携拠点病院に関する指標

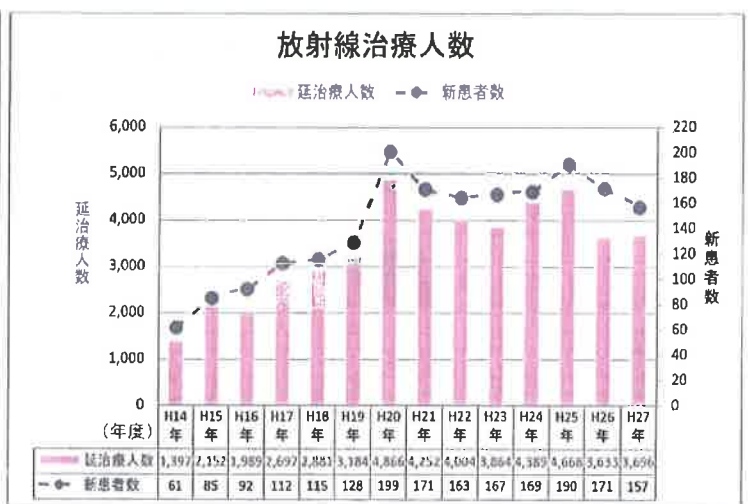
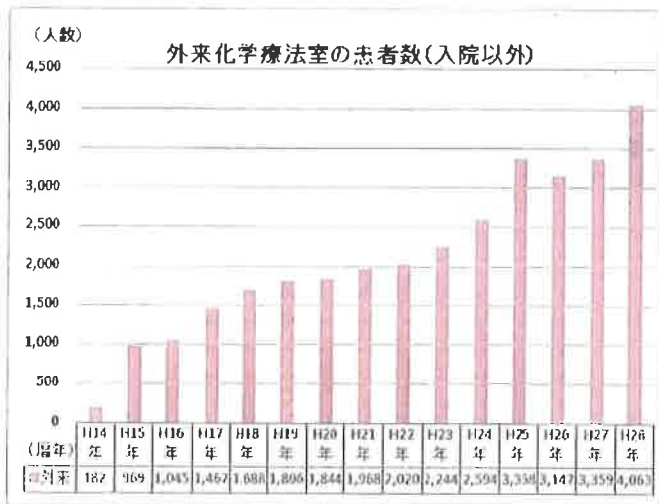
<がん化学療法>

外来化学療法室では、専任の医師、がん薬物療法専門医、がん化学療法認定看護師、がん薬物療法認定薬剤師など、多職種が協力して安全かつ専門的治療を提供している。また、各臓器を専門とする診療科と連絡を取りながら、全てのがんを対象とした治療を行っており、年々化学療法件数は伸びている。

<放射線治療>

下のグラフは、外照射(リニアック)による放射線治療の延治療人数と新患者数を示している。新患者数とは当院で初めて放射線治療を受けた人数であり、再治療人数は含めていない。

新患者数は170人前後、延治療人数は4000人弱程度で推移している。当院の放射線治療対象としては主に肺がん、乳がん、消化器系腫瘍、頭頸部腫瘍、泌尿器系腫瘍、悪性リンパ腫などであるが、それ以外の悪性腫瘍にも対応している。



<がん相談支援センター>

平成19年9月に岡山県下で初めて独立型がん相談支援センターを開設し、がんの特化した相談支援体制を整えた。さらに、平成26年8月からは電話禁煙相談窓口(たばこQUITライン)を開設して、たばこをやめたい方へのアドバイスや禁煙外来がある医療機関の情報提供などを行っている。

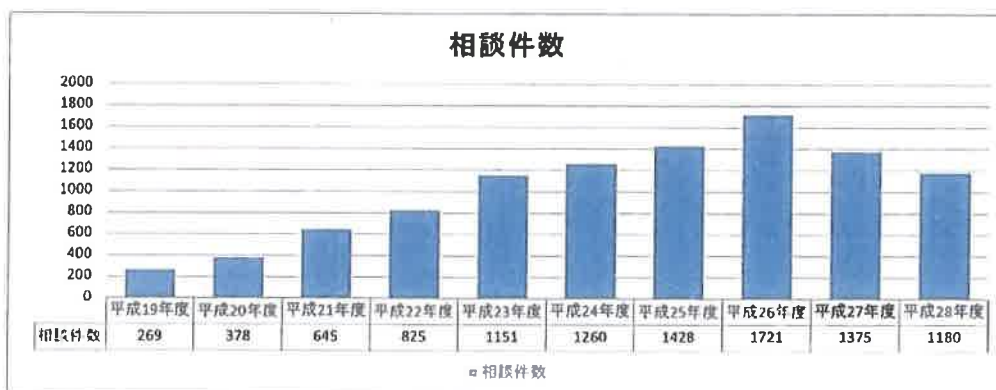
平成28年度は1180件の相談があり、相談者の約8割は患者ご本人、約2割はご家族であったが、がんと診断されていない方や当院の患者だけでなく他院で治療されている患者やご家族の方も来院されている。なお、相談業務の他にがん専門図書室による情報提供業務をあわせて行っている。

・主な相談内容

一般医療情報・・・がんの治療、検査、副作用、後遺症等

日常生活・・・副作用、後遺症などへの対応、漠然とした不安、医療費、生活費、社会生活、食事等

その他・・・セカンドオピニオン、緩和ケア、告知、医療者との関係、患者・家族の関係、禁煙相談等



<平成 28 年度のがん地域連携パスの連携（登録）状況> ※県南東部 2 次医療圏

・施設別申込件数（数値は医療機関数）

病院名	申込累計件数
岡山大学病院	235 件
岡山済生会総合病院	232 件
岡山赤十字病院	219 件
岡山医療センター	231 件
岡山ろうさい病院	148 件
岡山市立市民病院	166 件
川崎医科大学総合医療センター	160 件

（資料：岡山県がん診療連携協議会 HP）

<5 大がんの地域連携クリティカルパスの活用状況>

区分	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
肺がん	7 件	1 件	6 件
胃がん	—	—	2 件

注）活用実績があるパスのみ記載

<緩和ケア医療について>

当院のがん治療は、手術や化学療法、放射線治療に加えて、診療の初期段階における緩和ケア治療の関わりを大切にしており、「がんを縮小・消失させる治療」と車の両輪をなす「がんに伴う苦痛に対する治療」を実践している。

緩和ケアチームが携わる入院・外来診療をはじめ、独立型緩和ケア病棟による安心感のある療養環境の提供、さらに、病状に応じて最適な生活環境で過ごせるように、患者や家族の意思決定を尊重しつつ、自宅と病院を行き来できるように、地域の医療機関との連携を重視した入院環境を整えている。

また、岡山県では、国が示す「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に基づいた研修会が開催されており、当院においても緩和ケアに携わる医師の増加と資質向上を図るため、院内外の医師を対象とする岡山県緩和ケア研修会を主催している。

・診療実績

緩和ケア科	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
外来患者延数	3,840 人	3,763 人	3,285 人
入院患者延数	2,995 人	4,243 人	4,745 人
病床稼働率	43.3%	57.7%	65.0%
平均在院日数	21.9 日	19.1 日	18.5 日

・緩和ケアチームの活動

症状緩和（疼痛・疼痛以外含む）、今後の療養、治療サポート、精神面のサポート、リンパマッサージ等

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
新規依頼件数	281 件	317 件	255 件

・岡山県緩和ケア研修会（当院開催）

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
受講者数（院外含）	21 人	16 人	32 人

・緩和ケア地域連携ミーティングの開催（月 1 回定期開催）

地域連携の推進を目的として、当院から退院・転院する患者に関係する医療機関との多職種カンファレンスを平成 21 年度から継続して開催しており、連携強化による在宅医療の充実を図っている。



(5) ③地域医療支援病院に関する指標

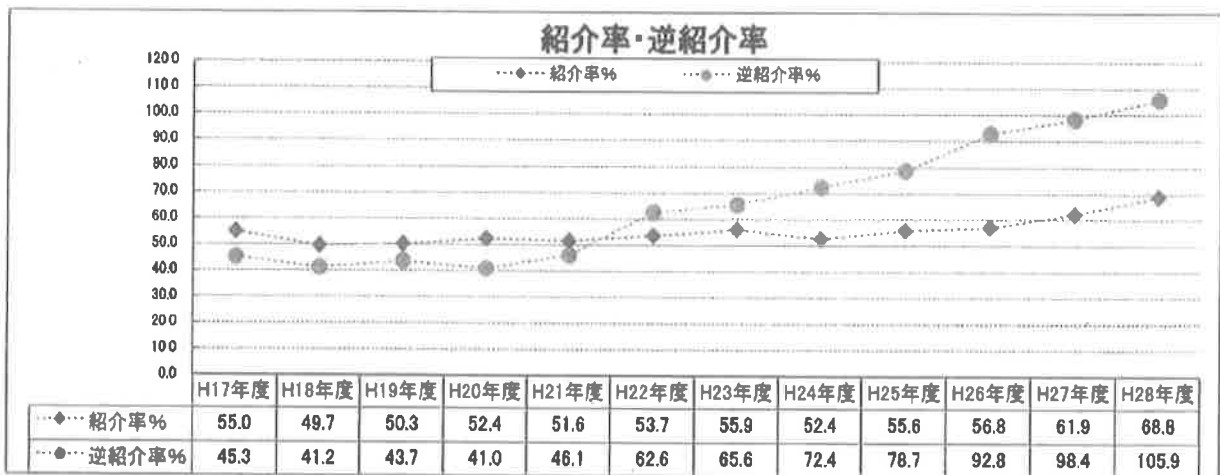
地域医療支援病院の果たすべき役割として、紹介・逆紹介の推進はもちろん、「もも脳ネット連携パス」の活用促進や地域医療ネットワーク「晴れやかネット（医療ネットワーク岡山）」における情報開示同意書の取得促進等、地域の「かかりつけ医」との連携強化に取り組んでいる。

また、医療機器の共同利用や開放病床の運用についても、関係機関の窓口としての役割を担うべく、地域医療連携室の医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・事務職員が協力し、業務拡大に力を注いでいる。

なお、地域の医療機関や施設等と開催する主な研修会として、「病診連携研修会」が年4回、地域の診療所や訪問看護ステーション、施設等のスタッフとの研修や意見交換を目的に開催する「地域でつなぐ療養支援の会」が年5回あり、毎回様々なテーマについて話し合いが行われている。

・紹介、逆紹介率

地域医療支援病院に指定された平成23年度から平成28年度にかけて、紹介率は55.9%から68.8%に上昇、また、逆紹介率では65.6%から105.9%と大きく上昇している。



・地域医療連携パスの利用状況（5大がんのパス以外）

地域連携ネットワークである「もも脳ネット」の急性期病院として、患者が在宅復帰するまでの切れ目のない医療を提供するため、パスを活用した連携の推進に努めている。

岡山県の統計にもあるように、将来的な脳卒中、大腿骨骨折による入院患者の増加が予想されるため、患者の早期在宅復帰に向けた関係機関の連携を今後も強化していく必要がある。

連携パス名	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大腿骨頸部骨折連携パス	85件	92件	84件
脳卒中連携パス	93件	117件	97件

・医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）の運用状況

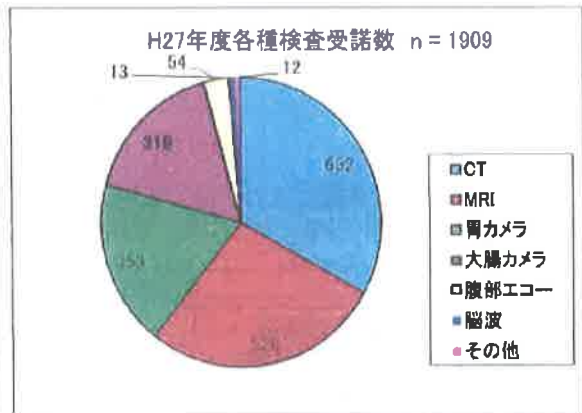
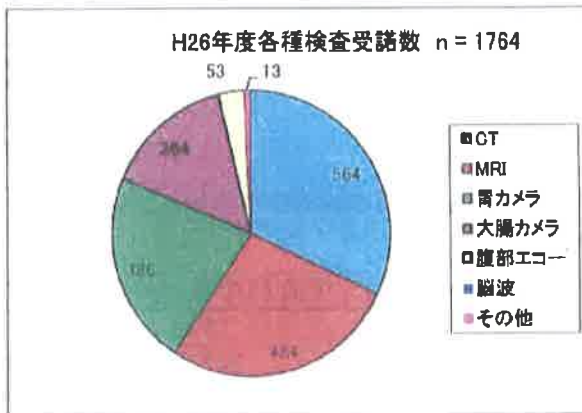
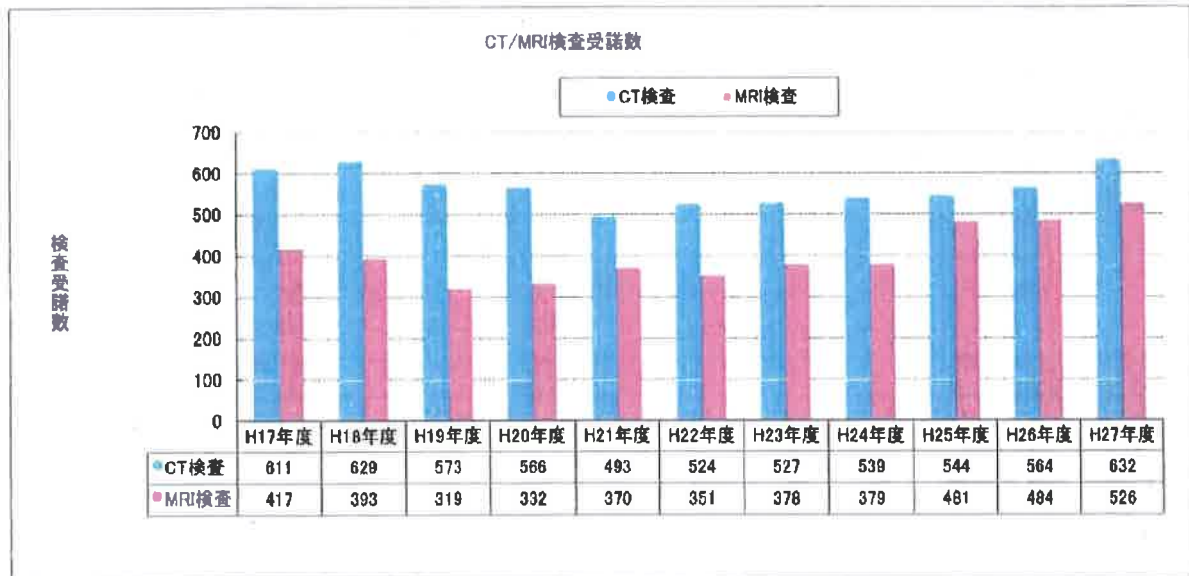
平成29年5月31日現在で、当院の情報開示同意書の取得数は886件と年々増加しており、ICTを活用した地域医療ネットワークの拡充に寄与している。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
開示件数	147件	204件	200件	290件
閲覧件数	16件	30件	16件	51件

情報開示同意書の取得数 ※平成29年5月1日時点	
件数	886件

・CT/MRI等の共同利用状況

地域の医療機関からの依頼による各種医療機器の共同利用については、CT、MRI、胃カメラ、大腸カメラの検査受諾が大半であり、依頼件数は増加傾向にある。



・開放病床の利用状況

昭和61年(1986年)、公的病院としては全国初の「開放型病院」の承認を国から受けた。

当初は内科単科であったが、平成9年(1997年)に小児科、平成13年(2001年)には外科系7診療科の開放病床が承認され、現在、病床数20床(平成27年5月変更)で運用している。

※外科系7診療科：外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
新入院患者数	36人	50人	31人
退院患者数	37人	48人	34人
延患者数	594人	1,047人	455人
平均在院日数	16.3日	5.3日	14.0日
病床利用率	4.1%	7.2%	3.1%
登録医数	143人	146人	146人
利用医師数	14人	27人	20人
月訪問回数	2.8回	4.3回	5.0回

・退院支援の状況

		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
退院患者数		12,079 人	12,274 人	12,473 人
退院先	自宅	10,499 人	10,629 人	10,763 人
	対退院患者数割合	86.9%	86.6%	86.3%
	転院	921 人	991 人	948 人
	施設	246 人	232 人	313 人
	死亡	413 人	422 人	449 人
介護支援連携指導		352 件	347 件	575 件
地域連携カンファレンス (退院時共同指導)		63 件	94 件	163 件

・セカンドオピニオン取扱数

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
当院への予約数	7 件	3 件	6 件
他院への予約数	7 件	19 件	41 件

・研修会等の開催状況

地域の医療機関や施設等の医師、看護師等、様々なスタッフとの意見交換や情報共有、研修等を行い、連携の強化を図っている。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
岡山赤十字病診連携研修会 (院内外の医師・看護師等が参加)	4 回 395 人	4 回 279 人	4 回 347 人	4 回 326 人
地域でつなぐ療養支援の会 (院内外施設スタッフ等が参加)	5 回 157 人	5 回 159 人	5 回 110 人	4 回 146 人

・連携医療機関・施設訪問の状況

患者の退院・転院等に関する情報共有のほか、研修等による施設訪問等、日頃から顔の見える関係作りを心掛けており、今後も訪問活動を充実させていく。

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
訪問施設数 (複数回訪問含)	68 施設	71 施設	73 施設



(5) ④基幹災害拠点病院について

日本赤十字社は、災害救助法や災害対策基本法において、指定公共機関に位置付けられており、災害救護活動等への協力義務が定められている。また、国民保護法においても同様に指定公共機関とされおり、国民保護のための措置について、重要な役割を担う必要がある。

当院は、平成 9 年に岡山県から指定された基幹災害拠点病院であり、また、日本赤十字社の医療施設として、国が定めている重要な役割を担う立場を踏まえ、多数負傷者等の発生（NBC・テロ災害を含む）が想定される状況に備えて、応急救護用医薬品、医療資機材等の備蓄を行い、災害派遣医療チーム（DMAT）の編成・訓練や岡山県の受託事業として「おかやま DMAT」の養成等を行うとともに、日本赤十字社岡山県支部の災害救護活動に協力するため、医療救護班を編成している。

なお、当院被災時に備えて BCP（事業継続計画）を定め、自院の診療体制を維持しつつ、他の病院・施設等を含めた関係機関の支援が可能な体制を整えている。

・災害対応要員（被災地派遣等に係る人員）

平成 28 年度編成		医師		コメディカル	ロジ
DMAT	3 チーム	5 人	9 人	1 人	6 人
医療救護班	8 個班	8 人	24 人	5 人	11 人

・災害時における病院機能の維持

区分	内容
病院本館：地上 7 階・地下 1 階	耐震構造
病院新館：地上 7 階	免震構造（浸水防止用の可動式防潮堤あり）
電源供給	発電機による非常用電源に切り替え
水道供給	受水槽からの供給（飲料水用に可搬式非常浄化装置あり）
空調機能（停電時）	手術センター、救急外来は暖房・換気を維持
その他、医薬品、消耗品、食料等の備蓄物資	

・災害救護の実績

医療救護班の派遣については、平成 7 年の阪神淡路大震災のほか、平成 12 年度の西鉄バスジャック事件や鳥取県西部沖地震、県内外台風災害への派遣実績があるが、近年の主な派遣実績は以下のとおりである。

年度	災害等名称	派遣等人数（延人数）
平成 16 年度	・岡山県 16 号、18 号、21 号、23 号台風	・医療救護班 : 46 名
	・新潟中越地震	・医療救護班 : 21 名
平成 19 年度	・新潟中越沖地震	・医療救護班 : 7 名
平成 21 年度	・美作市大雨災害	・医療救護班 : 6 名
平成 22・23 年度	・東日本大震災（3 月 11 日～6 月 24 日）	・DMAT、医療救護班等 : 84 名
平成 26 年度	・広島県大雨災害	・医療救護班等 : 14 名
平成 28 年度	・熊本地震（被災地・DMAT 調整本部等）	・DMAT、医療救護班等 : 64 名

・訓練、研修等（院内訓練は除く）

年度	内容（主な訓練、研修を抜粋）	参加（延人数）
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国赤十字救護班研修会</li> <li>・ 岡山県総合防災訓練</li> <li>・ 中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練</li> <li>・ 中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練</li> <li>・ 日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練</li> <li>・ 水島地区石油コンビナート総合防災訓練</li> <li>・ 岡山空港航空機事故総合訓練</li> <li>・ 日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 36 名</li> <li>・ 看護師 : 58 名</li> <li>・ コメディカル等 : 94 名</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国赤十字救護班研修会</li> <li>・ 岡山県総合防災訓練</li> <li>・ DMAT・DPAT 合同ロジスティックス研修</li> <li>・ 日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会</li> <li>・ 日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練</li> <li>・ 中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練</li> <li>・ 水島地区石油コンビナート総合防災訓練</li> <li>・ おかやま DMAT 隊員養成研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 36 名</li> <li>・ 看護師 : 67 名</li> <li>・ コメディカル等 : 135 名</li> </ul>
平成 28 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高梁川総合水防演習</li> <li>・ 全国赤十字救護班研修会</li> <li>・ DMAT・DPAT 合同ロジスティックス研修</li> <li>・ 水島地区石油コンビナート総合防災訓練</li> <li>・ 中国地区 DMAT 連絡協議会実働訓練</li> <li>・ 日本赤十字社中国・四国各県支部合同災害救護訓練</li> <li>・ 岡山空港航空機事故総合訓練</li> <li>・ おかやま DMAT 隊員養成研修</li> <li>・ 国民保護共同図上訓練 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 51 名</li> <li>・ 看護師 : 78 名</li> <li>・ コメディカル等 : 120 名</li> </ul>

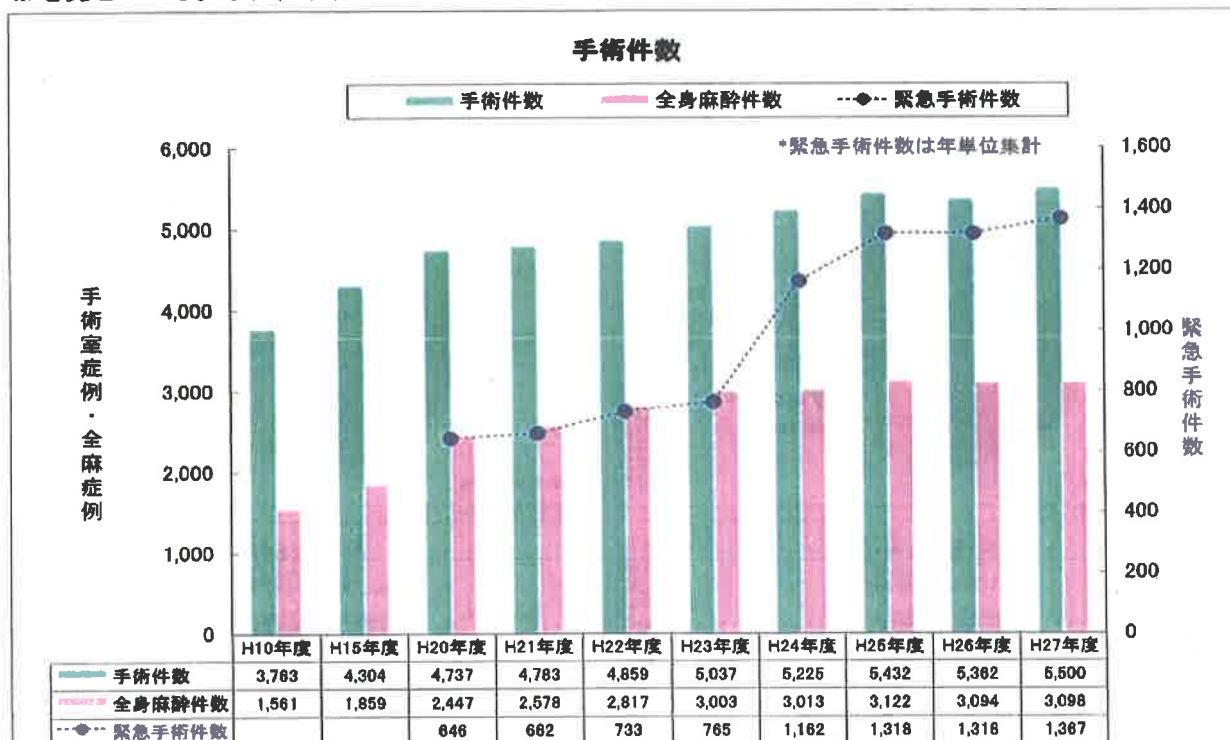
・イベント、スポーツ大会等への派遣

年度	内容（主な行事を抜粋）	参加（延人数）
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津山加茂郷フルマラソン全国大会</li> <li>・ おかやま桃太郎まつり納涼花火大会</li> <li>・ 倉敷国際トライアスロン大会</li> <li>・ 蒜山高原マラソン全国大会</li> <li>・ 西大寺会陽</li> <li>・ そうじゃ吉備路マラソン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 10 名</li> <li>・ 看護師 : 19 名</li> <li>・ コメディカル等 : 16 名</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 津山加茂郷フルマラソン全国大会</li> <li>・ おかやま桃太郎まつり納涼花火大会</li> <li>・ 倉敷国際トライアスロン大会</li> <li>・ 蒜山高原マラソン全国大会</li> <li>・ おかやまマラソン</li> <li>・ 西大寺会陽</li> <li>・ そうじゃ吉備路マラソン 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 12 名</li> <li>・ 看護師 : 24 名</li> <li>・ コメディカル等 : 19 名</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国高等学校総合体育大会</li> <li>・ おかやま桃太郎まつり納涼花火大会</li> <li>・ 倉敷国際トライアスロン大会</li> <li>・ 蒜山高原マラソン全国大会</li> <li>・ おかやまマラソン</li> <li>・ そうじゃ吉備路マラソン</li> <li>・ 西大寺会陽 他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医師 : 15 名</li> <li>・ 看護師 : 22 名</li> <li>・ コメディカル等 : 16 名</li> </ul>

(6) 手術、緊急手術、全身麻酔件数

本院の手術センターで行われた手術件数は、平成10年度には3700例余りであったが、その後は年々増加し、平成23年度に5000件を突破した。また、全身麻酔手術件数も平成10年度の2倍となっている。

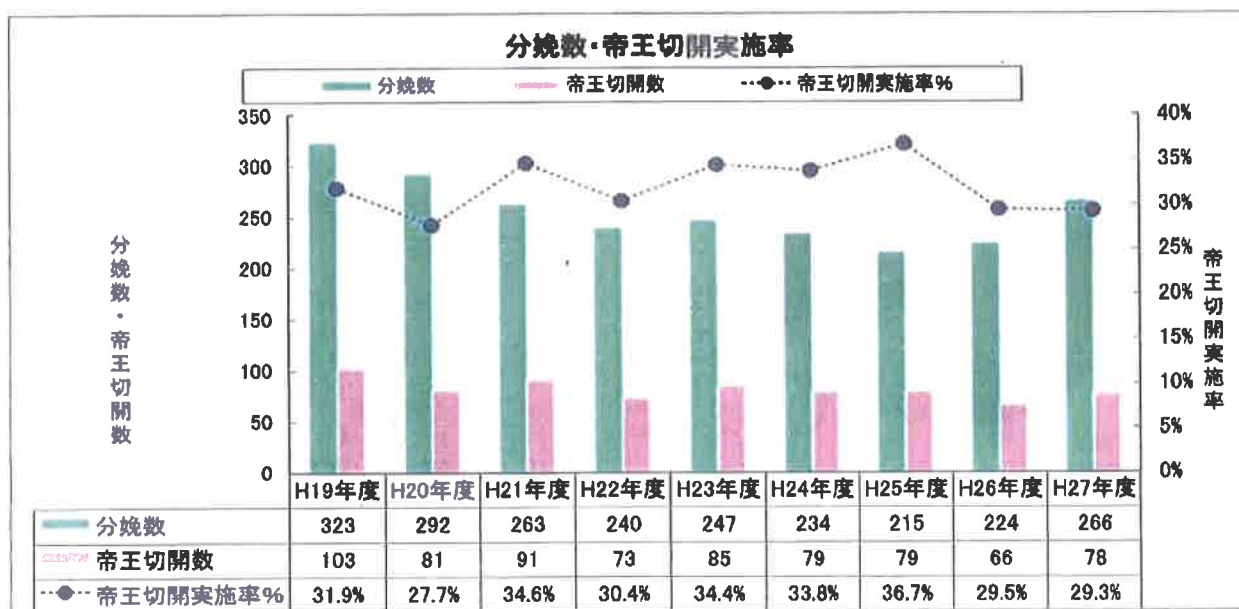
さらに、本院は緊急手術が多いことが特徴であるが、平成23年度から平成27年度にかけて倍以上の増加を見せている。なお、平成25年5月には心臓手術も再開し、手術件数を伸ばしている。



(7) 分娩数、帝王切開術

地域周産期母子医療センターの認定を受けており、母体搬送・産科救急にも24時間対応してハイリスク妊産婦の管理、分娩を行なうとともに、分娩に関しては、小児科医師の立会のもと、蘇生・救命ができる体制を整えている。

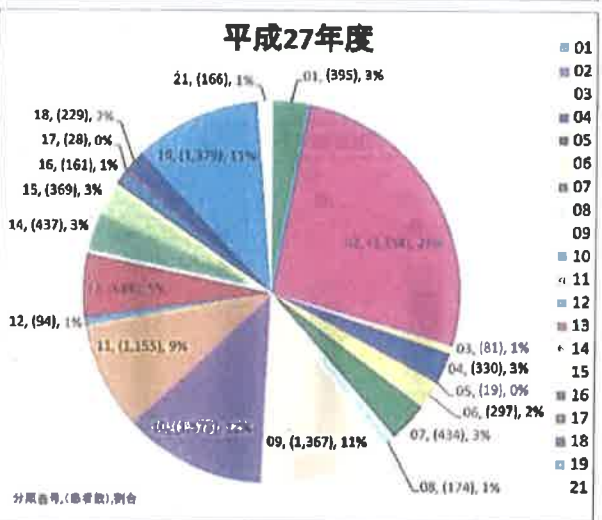
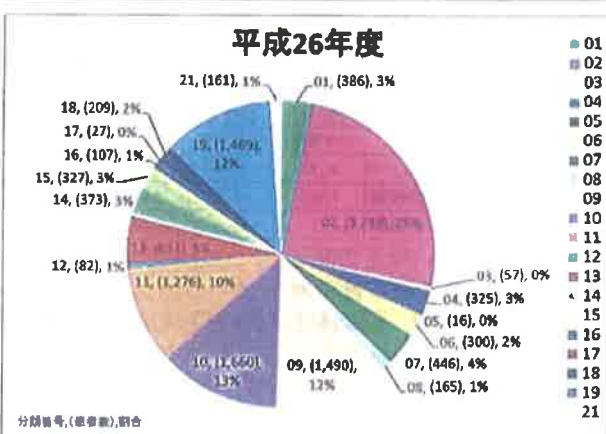
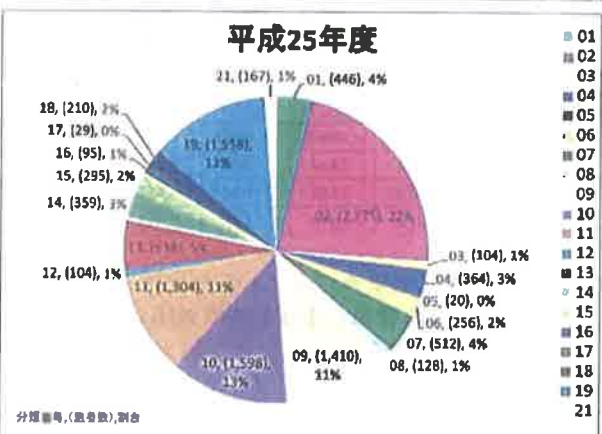
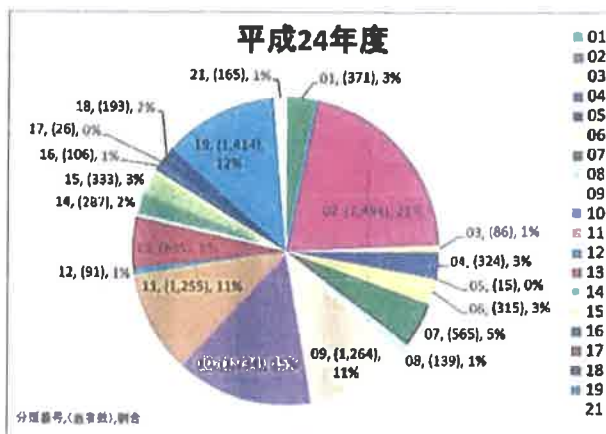
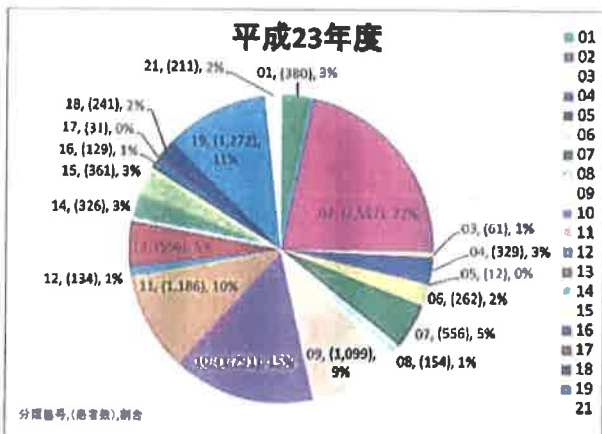
また、平成27年5月から、新病棟（南館）3階にLDR（陣痛分娩室）、MFICU（母体・胎児集中治療室）、NICU（新生児集中治療室）、GCU（回復治療室）が整備され、シャワー・トイレ付の個室を主体とする新たな周産期母子医療センターにリニューアルしている。



(8) ①疾病大分類別退院患者数

下のグラフは、年度別による当院の疾病大分類別退院患者数を示したものである。疾病の傾向をみると、どの年度もほぼ同様に、02 新生物（がんなど）・10 呼吸器疾患（肺炎など）・19 損傷中毒（骨折など）・09 循環器疾患（狭心症など）・11 消化器疾患（胆石症など）の比率が高くなっている。

なお、当院の特徴の1つとして、救命救急センターを併設していることから、骨折などの損傷（特に多発外傷）が多いということがあげられる。



分類番号	疾病大分類
01	感染症・寄生虫症
02	新生物
03	血液・造血器疾患・免疫機能障害
04	内分泌・栄養・代謝疾患
05	精神・行動障害
06	神経系疾患
07	眼・付属器疾患
08	耳・乳様突起疾患
09	循環器系疾患
10	呼吸器系疾患
11	消化器系疾患
12	皮膚・皮下組織疾患
13	筋骨格系・結合組織疾患
14	泌尿生殖器系疾患
15	妊娠・分娩・産褥
16	周産期病態
17	先天奇形・変形・染色体異常
18	症状・徴候・異常臨床所見・異常検査所見
19	損傷・中毒
21	健康状態に影響を及ぼす要因

(8) ②年齢別性別退院患者数

下のグラフは平成23年度から平成27年度までの退院患者の年齢分布を示したものである。

いずれの年も、0-9歳台と60~80歳台の患者が多く、きれいな2峰性パターンを呈しており、言い換えると疾病感受性の高い年齢層の入退院が多いということになる。

患者数をみると、0-9歳台では毎年1500名前後であるが、60~80歳台の患者は経年的に増加している。

特に70歳台と80歳台の患者が、5年間で各々約900名、600名増えていることがわかる。

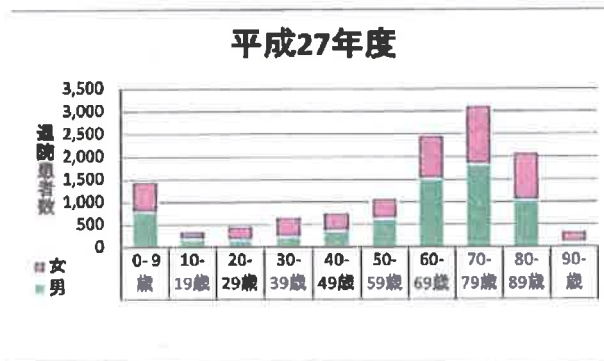
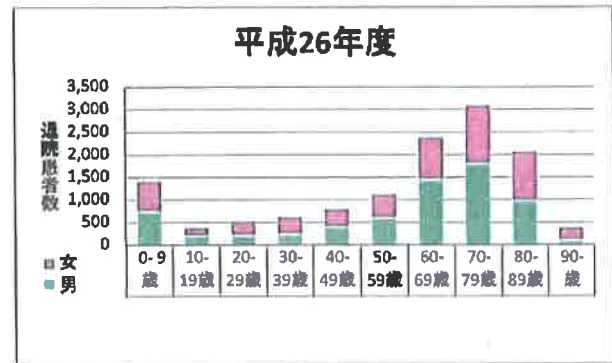
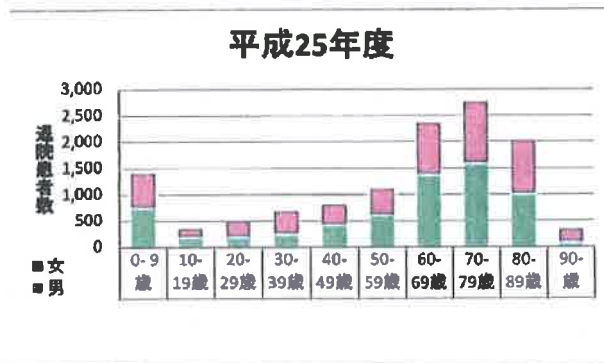
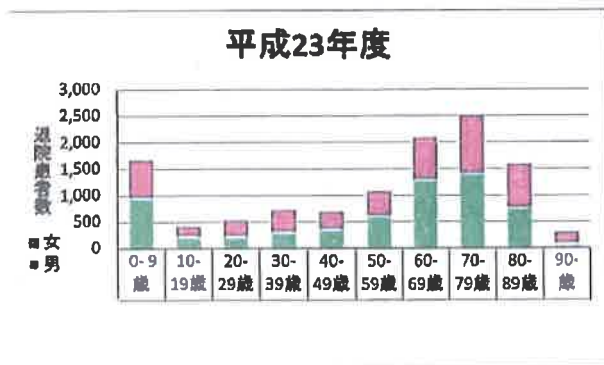
・年齢別退院患者数で2峰性を示した年齢層での代表的な疾患は次のとおりである。

0-9歳台：急性気管支炎、肺炎、喘息、ウイルス性などの腸管感染症、急性咽頭炎

60歳台：肺がん、狭心症、卵巣がん、白内障、前立腺がん

70歳台：肺がん、狭心症、白内障、前立腺がん、胃がん

80歳台：白内障、狭心症、肺がん、大腿骨骨折、心不全



(9) 政策医療（5 疾病・5 事業及び在宅医療）に関する取り組み状況

地域医療を支える公的医療機関として、本院が持つ医療機能を積極的に活用して政策医療に対応することが重要であり、各疾病に対する専門治療等を担うとともに、多分野にわたる事業で中核的な役割を担っている。また、本院は健康管理センターを併設しており、各疾病の予防啓発や早期発見による専門診療科へのスムーズな治療移行体制を整備している。

5 疾病	本院が提供する医療機能等
がん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域がん診療連携拠点病院</li> <li>・ 岡山県統一版 5 大がん地域連携パスを活用した地域医療連携の推進</li> <li>・ 院内にがんセンター及びがん相談支援センター開設</li> <li>・ 手術、化学療法、放射線治療、等の高度医療提供</li> <li>・ 緩和ケア医療（入院は独立型の緩和ケア病棟）の提供</li> <li>・ リハビリテーションの実施</li> <li>・ がん相談支援センター等における患者や家族への相談・支援</li> </ul>
脳卒中	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域連携ネットワーク「もも脳ネット」の急性期医療機関</li> <li>・ 「もも脳ネット連携パス」を活用した地域医療連携を推進</li> <li>・ 院内に脳卒中センター、高度脳神経センターを開設</li> <li>・ 脳梗塞に対する t-PA 静脈内投与</li> <li>・ 脳神経外科・脳血管内治療外科による手術対応</li> <li>・ リハビリテーションの実施</li> </ul>
急性心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「急性心筋梗塞医療連携パス（安心ハート手帳）」の急性期医療機関</li> <li>・ 院内に循環器センター開設</li> <li>・ 連携パスを活用した地域医療連携を推進</li> <li>・ 虚血性心疾患に対するカテーテル治療等</li> <li>・ 心臓血管外科の協力による冠動脈バイパス手術等</li> <li>・ リハビリテーションの実施</li> <li>・ 日本赤十字社岡山県支部との協力による AED 使用等の一次救命処置の普及啓発</li> </ul>
糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡山県糖尿病医療連携体制を担う医療機関であり、糖尿病の総合管理・専門治療・慢性合併症・急性増悪に対応</li> <li>・ 院内に糖尿病センター開設</li> <li>・ 入院治療として、糖尿病教育、血糖コントロール、合併症の検査・治療や救急時の処置等を多職種によるチーム医療で実施</li> </ul>
精神疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 岡山市認知症疾患医療センター指定医療機関として、かかりつけ医、サポート医の研修や地域包括支援センターと連携した地域の認知症対策の実施（地域住民を対象とした相談会を定期的開催）</li> <li>・ 精神神経科外来における認知症の診断・治療やメンタルヘルス相談等の実施</li> <li>・ 救命救急センターから受け入れた患者や緩和ケア科等の他科入院中の患者に対する精神神経科医師によるサポート（認定看護師、医療ソーシャルワーカーを含む認知症ケアチームの活動も含む）</li> </ul>



5 事業・在宅医療	当院が提供する医療機能等
救急医療	<p>○救命救急センター</p> <p>一次・二次および、三次の重篤な救急患者を常時受け入れることができるよう、専任の医師と看護師が 24 時間体制で、全診療科医師および病院スタッフの全面的な支援を得て診療にあたり、高度な医療を提供している。</p> <p>また、一次・二次医療施設や消防隊との円滑な連携にも力を入れている。</p>
災害時における医療	<p>○基幹災害拠点病院</p> <p>県内で唯一の基幹災害拠点病院として、重症救急患者の救命医療を行う高度な診療機能を備えており、被災地からの重症患者等の受け入れ、搬出を行う広域搬送への対応機能を備えている。</p> <p>また、自己完結型の医療救護チーム（DMAT）の派遣、医療救護要員の訓練や研修機能を備えた施設であり、日本赤十字社の全国的な組織力を背景として統制のとれた災害救護活動を行う。</p>
へき地の医療	<p>○へき地医療拠点病院</p> <p>当医療圏において、地域で不足する医療を支援するため、定期的に当院の医師、看護師等のスタッフを地域の診療所に派遣し、住民の診療を行っている。</p> <p>平成 28 年度では、耳鼻咽喉科の医師、看護師、事務職員及び整形外科医師の派遣を毎月実施しており、平成 29 年度も引続き実施中である。</p>
周産期医療	<p>○地域周産期母子医療センター</p> <p>周産期母体・胎児専門医の指定施設であり、母体胎児集中治療管理室（MFICU）新生児集中治療室（NICU）を備え、母体搬送・産科救急にも 24 時間対応し、ハイリスク妊産婦の管理、分娩を行っている。</p> <p>妊娠・分娩の異常に対しては、麻酔科、内科、小児科等の各診療科医師とともに迅速に対応し、安心・安全なお産を目指している。</p>
小児医療 (小児救急医療)	<p>○小児救急医療支援病院</p> <p>急性期病院として、小児の急性疾患全般に対応しており、当院の特色である救急医療に対しても、岡山大学小児科の助力を得ながら、24 時間 365 日小児科医師が対応している。また、救急外来では、地域の開業小児科医が準夜帯の診療に参加しており、病診連携と小児救急診療体制の充実に努めている。</p> <p>岡山県の小児救急医療電話相談（＃8000）に関して、愛育委員会等と連携し、母子クラブ等が行う講座に救急認定看護師を派遣し、小児救急に関する普及啓発に協力している。</p>
在宅医療	<p>○在宅医療への支援</p> <p>地域包括ケアシステムの構築が進むなかで、急性期病院の立場で在宅医療に貢献するため、訪問看護事業所や特別養護老人ホーム等の要請に応じて認定看護師を派遣し、施設スタッフのレベルアップを図る研修等に協力している。</p> <p>また、在宅事業所等からの依頼により、当院認定看護師が訪問看護に同行し、在宅患者の看護を共同で行っている。</p> <p>地域医療連携室内には退院支援部門を開設しており、退院後の介護サービス利用等の相談など患者・家族に対する全般的な相談を行うとともに、地域の事業所との連携を強化するため、定期的に会議等を開催して情報共有を行っている。</p>

## 2 岡山赤十字病院の課題

### (1) 地域医療構想の各種調査に基づく状況認識

岡山県保健医療計画等による推計では、県南東部保健医療圏の人口は、今後、増加傾向から減少傾向に転じるとともに、2025年度、2040年度と65歳以上の高齢者率が上昇していく見込みである。

受療率が高いと言える高年齢者層の増加に伴い、当医療圏における入院受療者数の推計は、2030年度にピークを迎えるまで増加傾向を見せ、その後は人口減少とともに徐々に減少すると推測されている。

疾病別の入院受療者数推計をみると、がんは高度急性期、急性期、回復期のどの医療機能においても2025年度まで微増を続け、その後は微減に転じる。脳卒中では、がんと同様に2030年度まで3機能ともに増加傾向であり、2040年度にかけて微減となる。成人肺炎及び大腿骨骨折では、高度急性期機能においては2030年度まで緩やかに上昇する一方で、急性期、回復期でやや急な伸びが予想されているが、やはり3機能の推計とも2030年度以降横ばいに移行し、2040年度に向けて微減となる見込みである。

また、入院患者受療動向によると、当医療圏における自圏内の受療率は90%を超えており、かつ、県北から県南に患者が流入する動きも見られるが、病床利用率及び平均在院日数は全国や岡山県の平均と比較して低い（短い）状況である。

これらの資料に示された現状と将来の見通しに立脚して当院が対処すべき課題は、人口構造や入院患者受療動向等の変化と病床機能・病床利用率等のバランスを踏まえ、地域医療の実情に沿って構想の実現に協力していくことである。

### (2) 地域医療構想の推進を見据えた当院の主たる課題

岡山県全体で起こる人口減少や年齢構造の変化、また、年齢層によって罹患率に差が生じる各種疾病等、2025年に向かい地域医療構想が進む過程では、医療圏を取り巻く様々な環境の変化が推測される。

今後、起こるであろう状況の変化に備え、地域医療構想の枠組みに協力しつつ、当院がいかなる役割を果たしていくべきかを様々な観点から検討した結果、当院の現状で述べた政策医療等への取り組みを維持しながら、以下に記載した①、②を重点課題として掲げ、当院の主たる事業運営方針とする。

また、①、②の重点課題を達成するため、強化すべき具体的な事業をその後に記載する。

#### ① 公的医療機関として担う高度急性期医療の充実・強化

県南東部医療圏における将来の入院患者数は、2030年度をピークとして、その後は微減傾向と推計されており、また、がんや脳卒中等の各疾病についても、それぞれ2025年度、2030年度までは増加していくものの、それ以降は微減となることが推計されている。

当院は、がん、脳卒中、心筋梗塞などの急性期医療分野や救命救急センターにおける救急医療の分野で地域医療を支える公的医療機関の役割を担ってきたが、今後、地域医療構想の進捗や将来的な見通しを考慮しつつ、これまでの実績と診療体制を基盤として更なる医療機能の充実・強化を図り、政策医療分野における高度急性期医療を支える存在として、引き続き公的医療機関の役割を果たしていく。

#### ② 地域医療支援の拡大

当院は、平成23年7月に「地域医療支援病院」に指定されて以来、地域における安定的な医療提供体制を確保するため、連携先の病院・診療所との関係強化を推進してきた。

今後、地域医療構想における将来的な課題（地域包括ケアシステムの構築等）への取り組みに協力しつつ、当院が持つ高度急性期医療機能をより一層効果的に活用していくため、地域の医療機関とともに、それぞれの地域の実情に応じた機能分化と連携を進めていく。



＜救急医療への対応＞

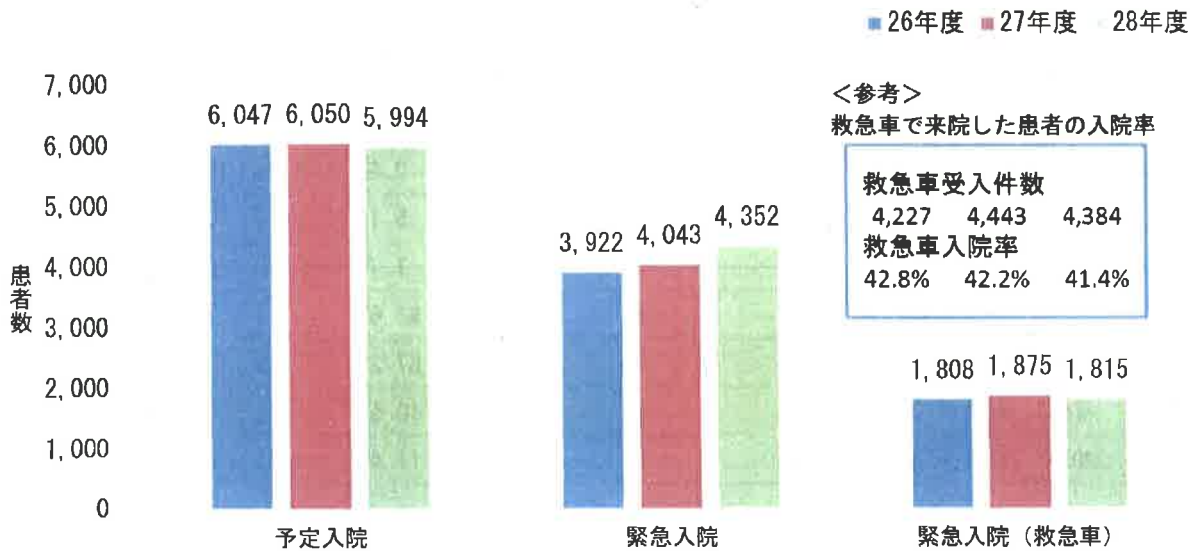
当院は、三次救急医療施設として、約 4,500 台（年間）の救急搬送を受け入れており、また、救急外来では、約 25,000 人（年間）が受診している。

平成 26 年度から平成 28 年度にかけて緊急入院患者が増加を続けており、当院が今後取るべき対応として、重症患者の診療体制の充実・強化とともに、院内各部門の連携をあらためて見直し、救急車からの入院受け入れ等のスムーズ化を進めていく。

また、救急外来からの重症入院患者を診療科別にみると、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科の受け入れ患者が多く、整形外科、脳神経外科、脳卒中科、小児科、消化器外科の患者がそれに続く。

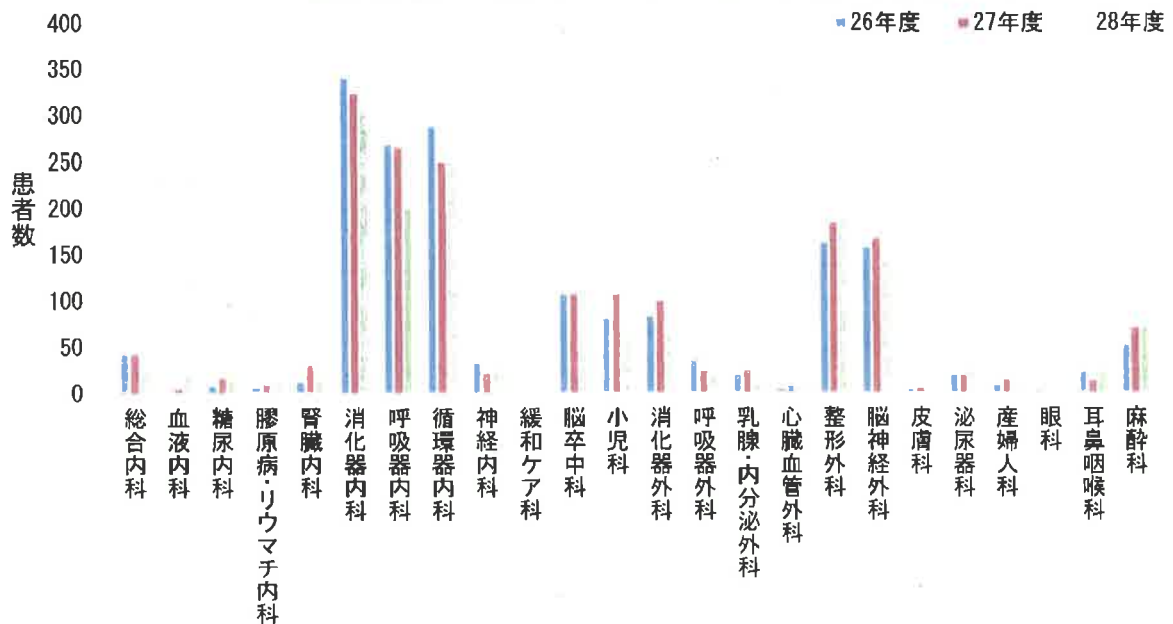
今後、心筋梗塞や脳卒中等の救命処置を要する患者や肺炎、骨折等の高齢者層に多発する疾患の受け入れ増加が推測されることから、患者の早期在宅復帰を促進するため、急性期医療後の対応を担う地域の医療機関との連携をさらに整備する必要がある。

予定入院患者数と緊急入院患者数（全科）



（資料：厚生労働省提出 DPC データ（様式 1））

救急外来からの重症入院患者数（科別）※紹介除く



（資料：厚生労働省提出 DPC データ（様式 1））

<がんへの対応>

当院の入院患者は、「新生物」による患者が例年約4分の1を占めるうえ、60～70歳台の代表的な疾患も「肺がん」である。また、入院患者数が多い診療科における上位の疾患もやはり癌となっている。

当院では、健診によるがんの早期発見をはじめ、地域がん診療連携拠点病院としての取り組みとして、手術、放射線治療、化学療法から緩和ケアにいたる各種治療やがん相談支援センターによる様々な対応を実施しているが、今後、高齢者の増加や圏域のがん入院患者数が増加する見込み（2025年度以降は微減傾向）であることから、高齢がん患者に対応した診療体制を充実させていく必要がある。

○当院で入院(DPC)患者数が多い診療科におけるがん患者の状況（平成28年度）

・消化器内科

（資料：厚生労働省提出DPCデータ（様式1））

1	K803	総胆管結石性胆管炎	患者数	予定入院		緊急入院		紹介あり	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	K803	総胆管結石性胆管炎	116	38	32.8%	78	67.2%	77	66.4%
2	C220	肝細胞癌	94	79	84.0%	15	16.0%	73	77.7%
3	C162	胃体部癌	81	66	81.5%	15	18.5%	55	67.9%
4	K573	結腸憩室炎	60	0	0.0%	60	100.0%	35	58.3%
5	K85	急性膵炎	59	3	5.1%	56	94.9%	25	42.4%
6	J690	誤嚥性肺炎	52	4	7.7%	48	92.3%	24	46.2%
7	D125	S状結腸腺腫	47	44	93.6%	3	6.4%	34	72.3%
8	C163	胃前庭部癌	39	34	87.2%	5	12.8%	23	59.0%
9	C250	膵頭部癌	37	15	40.5%	22	59.5%	24	64.9%
10	K830	急性胆管炎	35	4	11.4%	31	88.6%	25	71.4%

・呼吸器内科

（資料：厚生労働省提出DPCデータ（様式1））

1	C341	上葉肺癌	患者数	予定入院		緊急入院		紹介あり	
				人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	C341	上葉肺癌	246	208	84.6%	38	15.4%	195	79.3%
2	C343	下葉肺癌	139	121	87.1%	18	13.0%	104	74.8%
3	J690	誤嚥性肺炎	64	2	3.1%	62	96.9%	39	60.9%
4	J841	特発性間質性肺炎	44	21	47.7%	23	52.3%	35	79.5%
5	J159	細菌性肺炎	43	1	2.3%	42	97.7%	26	60.5%
6	J189	肺炎	40	3	7.5%	37	92.5%	25	62.5%
7	J180	気管支肺炎	32	1	3.1%	31	96.9%	14	43.8%
8	J46	気管支喘息発作	29	0	0.0%	29	100.0%	10	34.5%
9	J938	続発性気胸	26	1	3.8%	25	96.2%	10	38.5%
10	J13	肺炎球菌肺炎	24	0	0.0%	24	100.0%	13	54.2%

<脳卒中への対応>

当院は救命救急センターの指定を受けており、脳卒中科によるt-PA投与や脳神経外科、脳血管内治療外科による手術等、脳血管疾患に対応した診療体制を整備している。今後、医療圏においては、2030年度にかけて脳卒中の入院患者が増加する見込み（2030年度以降は微減）であることから、脳血管疾患患者への対応を強化していく必要がある。

また、地域連携ネットワーク「もも脳ネット」による連携の枠組みと「もも脳ネット連携パス」を積極的に活用し、当院が急性期病院としての機能をより一層発揮できるように地域医療の連携拡充を進めていく。

・脳卒中の医療連携体制を担う医療機関における実績

(平成27年度)

(資料：岡山県医療推進課HP)

急性期区分		脳梗塞	脳内出血	くも膜下出血	発作一過性脳虚血	t-PA	術脳内血腫除去	脳血管内手術	脳動脈クリップ	術栓・塞栓溶解	選択的脳血離術	頸動脈内膜剥離術	作或牛数	ティカルパス	地域連携クリ
A	岡山市立市民病院	250	81	26	27	23	21	58	17	24	9	129			
	岡山赤十字病院	143	62	22	21	18	38	9	21	2	3	94			
	岡山医療センター	158	39	9	9	12	3	0	2	0	0	35			
	岡山旭東病院	442	113	35	37	39	17	47	34	0	0	181			
	岡山済生会病院	170	71	8	17	6	15	0	9	0	8	78			
	岡山大学病院	16	3	20	2	1	8	76	29	3	0	3			
	川崎病院	155	68	13	7	42	5	13	6	2	6	178			
	岡山ろうさい病院	153	45	13	13	5	18	0	3	0	0	33			
	岡山東部脳神経外科病院	205	47	18	10	4	14	18	25	0	15	31			

(平成26年度)

A	岡山市立市民病院	231	92	37	10	18	25	58	14	25	7	156			
	岡山赤十字病院	159	82	19	30	23	44	10	23	1	4	99			
	岡山医療センター	182	48	11	27	11	3	0	4	0	2	76			
	岡山旭東病院	437	119	43	43	19	17	13	44	0	2	151			
	岡山済生会病院	162	57	16	11	11	9	0	14	0	5	81			
	岡山大学病院	28	0	7	2	1	0	163	38	7	1	5			
	川崎病院	84	23	1	10	25	0	9	3	0	1	121			
	岡山ろうさい病院	161	45	22	29	6	4	0	8	0	0	70			
	岡山東部脳神経外科病院	170	53	10	18	5	4	17	37	0	11	44			

＜急性心筋梗塞への対応＞

当圏域の急性心筋梗塞の標準化死亡比（平成 20 年～24 年）は男性 124.0、女性 113.6 と男女とも 100 を超えており、高齢者の増加に伴い動脈硬化等の疾患が増加することが推測される。

当院の循環器内科では、心筋梗塞や狭心症などのいわゆる動脈硬化による虚血性心疾患に対する心臓カテーテル検査を数多く実施するとともに、弁膜症、高血圧、心筋症など多くの疾患による心不全の治療にも力を入れており、狭心症、心不全、心筋梗塞等を発症した患者を多数受け入れている。

救命救急センターを併設する施設として、急性期の心疾患に対応する診療体制をさらに充実させるとともに、患者の早期在宅復帰を目指し、地域連携パス（岡山県統一パス）を活用した医療機関の連携強化を図っていく。

・PCI 実施数の推移（各年ともに暦年で集計）

項目	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
PCI	271 件	245 件	259 件

・循環器内科の DPC 入院疾患上位（平成 28 年度）

（資料：厚生労働省提出 DPC データ（様式 1））

順位	ICD 10 傷病名	患者数	予定入院		緊急入院		紹介あり	
			患者数	割合	患者数	割合	患者数	割合
1	I208 労作性狭心症	350	326	93.1%	24	6.9%	250	71.4%
2	I500 うっ血性心不全	134	13	9.7%	121	90.3%	73	54.5%
3	I48 心房細動	45	7	15.6%	38	84.4%	23	51.1%
4	I200 不安定狭心症	44	16	36.4%	28	63.6%	22	50.0%
5	I209 狭心症	41	36	87.8%	5	12.2%	24	58.5%
6	I252 陳旧性心筋梗塞	33	31	93.9%	2	6.1%	19	57.6%
7	I210 急性前壁心筋梗塞	31	1	3.2%	30	96.8%	10	32.3%
8	I211 急性下壁心筋梗塞	28	0	0.0%	28	100.0%	7	25.0%
9	I201 冠攣縮性狭心症	26	12	46.2%	14	53.8%	9	34.6%
10	I471 発作性上室頻拍	20	11	55.0%	9	45.0%	7	35.0%

＜地域医療連携機能の強化＞

地域医療構想の実現に向けて当院の役割を明確化していくためには、地域医療連携機能の強化が必要不可欠である。

同構想の医療提供体制の構築にもある「医療機能の役割分担と連携」を進めていく前提として、切れない医療を提供する体制を整備していく必要があり、当院と地域の医療機関等とのさらなる連携強化を図る準備段階として、まずは当院の地域医療連携機能を強化していく。

また、岡山県では、ICT を活用した地域医療ネットワークの活用を進めているが、当院における「医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）」の情報開示同意書の取得件数は増加が続いており、当事業の拡大が、「医療機能の役割分担と連携」の推進に大きく寄与すると考えられるため、より一層の活用拡大を図っていく。

・地域医療支援病院に関する指標「紹介・逆紹介率」の推移

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
紹介率	55.6%	56.8%	61.9%	68.8%
逆紹介率	78.7%	92.8%	98.4%	105.9%
晴れやかネット開示件数	147 件	204 件	200 件	203 件
晴れやかネット閲覧件数	16 件	30 件	16 件	30 件

#### IV. 今後の方針

##### 1 地域において今後担うべき役割

###### (1) 救命救急センター機能

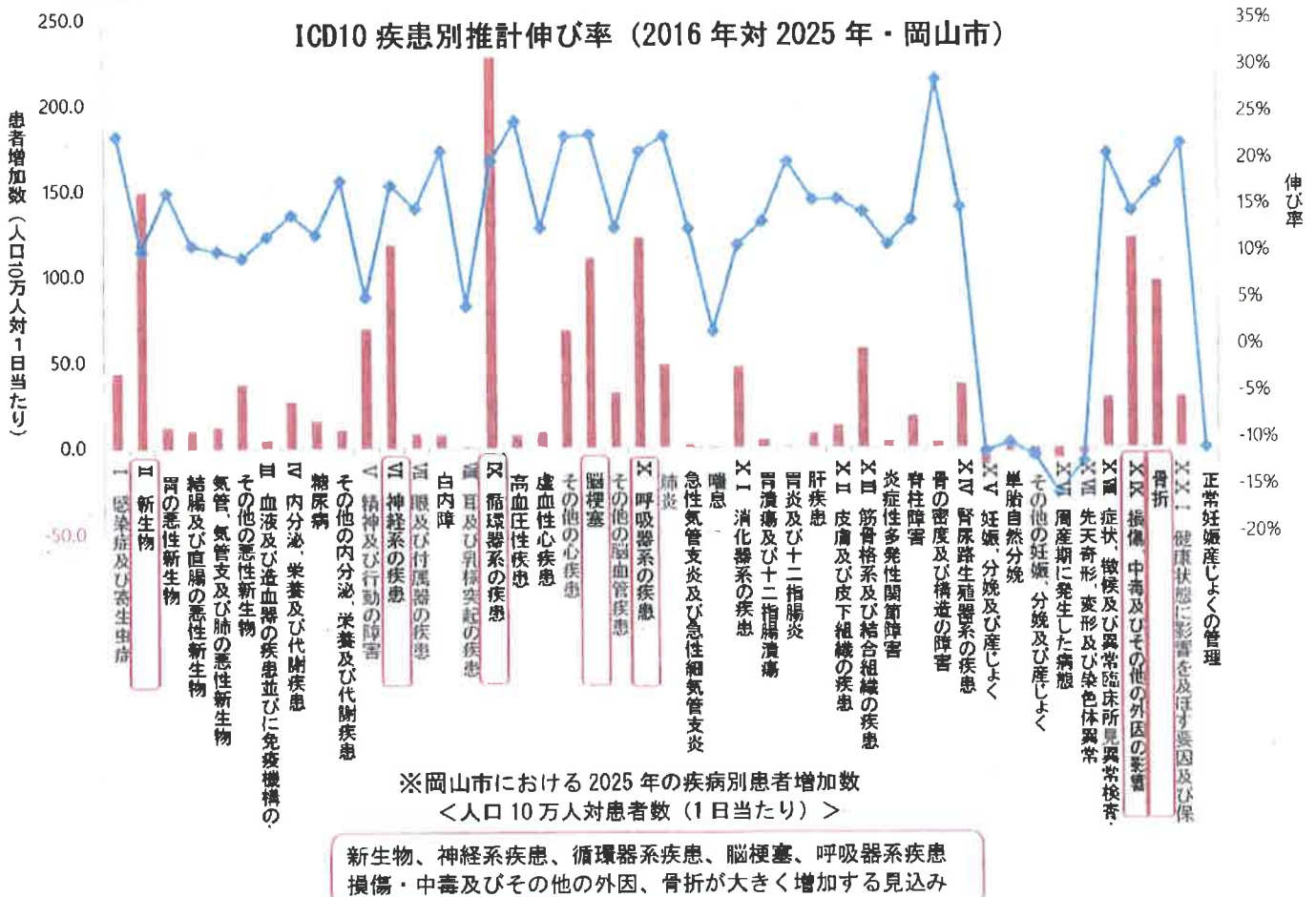
当院は三次救急を担う救命救急センターとして、地域に高度急性期医療を提供する役割を担っている。近年の救急外来受診者数は、平成 28 年度は減少しているものの、救急車搬入患者数はほぼ同水準で推移しており、一方で救急入院患者数は増加を続けている。

さらに、緊急手術の実施件数も平成 27 年度を除いて増加傾向であることから、将来的な高齢者人口の増加と脳卒中、急性心筋梗塞といった救命治療を要する疾患、骨折等の損傷患者の増加を見込んだ場合、当院の救命救急センターとしての機能は今後も必要と考える。

また、当院の入院患者地域別分布をみると、岡山市南区、岡山市北区、玉野市に居住する患者が約 65% を占めており、主に岡山市内から玉野市にいたる地域が中心となっている。人口減少の傾向が続くとはいえ、当院入院患者の地域分布に関して将来的に大きな変化はないと推測されることから、これらの地域で高度急性期医療をカバーする当院の存在はやはり重要だと考えている。

###### ・患者数等の実績推移

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
救急外来受診者数	28,941	26,175	26,700	24,653
救急車搬入患者数	4,367	4,227	4,443	4,384
救急入院患者数	4,302	4,435	4,489	4,660
緊急手術（手術室のみ）	1,318	1,318	1,367	1,321



（資料：平成 26 年受療行動調査（厚労省）及び将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所））

・入院患者地域別分布（全科）

※人口：平成28年10月1日時点

	26年度	27年度	28年度	26年度	27年度	28年度	人口
岡山市北区	2,555	2,392	2,470	21.7%	20.0%	20.3%	310,328
岡山市南区	3,874	3,959	4,026	32.9%	33.1%	33.1%	168,417
岡山市中区	1,121	1,287	1,281	9.5%	10.8%	10.5%	146,511
岡山市東区	1,062	1,153	1,115	9.0%	9.6%	9.2%	95,315
玉野市	1,320	1,387	1,404	11.2%	11.6%	11.5%	60,101
瀬戸内市	675	560	695	5.7%	4.7%	5.7%	36,684
備前市	271	280	244	2.3%	2.3%	2.0%	34,516
倉敷市	180	164	170	1.5%	1.4%	1.4%	477,463
赤磐市	142	123	130	1.2%	1.0%	1.1%	43,007
高梁市	94	100	111	0.8%	0.8%	0.9%	31,689
その他県内	257	274	281	2.2%	2.3%	2.3%	
県外	226	289	234	1.9%	2.4%	1.9%	
計	11,777	11,968	12,161	100.0%	100.0%	100.0%	

（資料：厚生労働省提出DPCデータ（様式1））

（2）地域がん診療連携拠点病院

地域がん診療連携拠点病院である当院には、高度で専門的な医療が求められている。

当院の手術件数、全身麻酔件数は例年ほぼ同数で推移しているものの、化学療法の実施人数は大きく増加しており、放射線治療件数についても、建築の影響が薄らいだ平成28年度には急激に実施件数を回復させている。

また、平成27年の4拠点病院における新入院がん患者数合計は14,964人、外来患者延べ数の合計は281,442人であったが、当医療圏のがん入院患者推計によると、2025年度まで増加傾向であり、その後も微減に留まることが推測されているため、当院ではがん診療の高度化・専門化を進めるとともに、入院患者等の受け入れ体制を整備し、特に高齢がん患者への対応力を強化していく。

さらに、平成27年度の県民満足度調査では、余命6カ月程度あるいはそれより短いと告げられた場合、61.4%の人が自宅療養を希望する結果が出ており、当院の診療機能であるがんの専門的治療及び緩和ケア病棟への入院治療と在宅療養との連携は、患者や家族の意向に沿った形で安寧な療養を提供することができ、地域包括ケアシステムの中で医療と介護を結ぶ大切な役割を果たすと考えている。

・診療実績の推移

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
全身麻酔件数	3,122件	3,094件	3,098件	2,967件
入院・外来手術（手術室外を含む）	10,629件	10,536件	10,540件	10,402件
悪性腫瘍手術（診断確定）	753件	754件	766件	567件
放射線治療件数	4,668件	3,633件	3,696件	4,699件
外来化学療法実施人数	3,544人	3,052人	3,557人	4,023人

・ 県南東部医療圏の県がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点病院の状況

(資料：国立がん研究センター がん情報サービス)

項目	岡山赤十字 病院	岡山大学 病院	岡山医療 センター	岡山済生会 総合病院
○病床数	500床	849床	609床	553床
○患者数等（平成27年1月1日～12月31日）				
・年間新入院患者数	12,744人	19,487人	13,813人	12,784人
・年間新入院がん患者数	3,067人	6,227人	2,701人	2,969人
・年間外来がん患者延べ数	62,335人	124,139人	37,845人	57,123人
○麻酔及び手術等の状況（平成28年4月1日～7月31日）				
・全身麻酔の件数の総数	911件	2,137件	1,223件	757件
・悪性腫瘍の手術件数の総数	211件	551件	140件	303件
・肺がん	34件	97件	21件	20件
・胃がん	37件	76件	22件	54件
・大腸がん	45件	73件	34件	56件
・肝臓がん	16件	94件	14件	49件
・乳がん	13件	106件	16件	28件
・転移性肺がん	6件	41件	21件	5件
・転移性肝がん	1件	25件	12件	7件
○放射線治療（平成27年1月1日～12月31日）				
・全てのがんを対象としたのべ患者数	184人	667人	192人	102人
○がんに係る化学療法（平成28年4月1日～7月31日）※1レジメンを1人としてカウント				
・延べ患者数（入院）	259人	566人	270人	267人
・延べ患者数（外来）	244人	3,178人	206人	0人
○検査等の実施状況（平成27年1月1日～12月31日）				
・病理診断	4,860件	11,895件	4,798件	9,528件
・細胞診診断	8,172件	10,317件	9,362件	12,218件
・病理組織迅速組織顕微鏡検査	187件	978件	78件	484件
・上部消化管内視鏡検査	5,426件	6,873件	2,583件	7,993件
・気管支内視鏡検査	345件	247件	186件	319件
・大腸内視鏡検査	1,814件	2,214件	1,287件	4,128件
・血管連続撮影	1,019件	417件	3,017件	430件
・CT	21,624件	35,829件	21,819件	29,179件
・CTガイド下生検	53件	1,442件	0件	51件
・MRI	8,566件	11,014件	7,759件	10,499件
・RI	1,236件	1,522件	1,364件	514件
・SPECT	892件	1,354件	114件	56件
・PET	0件	0件	0件	0件

(3) 地域医療支援病院

医療圏における「医療機能の役割分担と連携」の推進が課題とされるなか、地域医療支援病院として当院が地域で担う医療機能は、今後さらに重要性を増すと考えている。

当院に紹介される入院加療を要する患者は、平成 26 年度から平成 28 年度にかけて約 20%増加しており、外来診療における紹介患者も増加傾向を見せていることから、地域の医療機関の中で当院の連携先としての存在感が増していると言える。

さらに当院は積極的に逆紹介を行っており、連携先医療機関の安定に協力することで、住民に必要な医療資源がその地域で確保できるよう努めており、今後も地域の医療機関との連携を重視し、医療の役割分担と連携の推進に寄与していく。

・ 地域医療連携に関連する実績の推移

項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
予定入院紹介有患者数	2,968	3,311	3,603
初診紹介患者数	11,729	12,729	12,681
紹介率	56.8%	61.9%	68.8%
逆紹介率	92.8%	98.4%	105.9%

・ 退院先の状況推移

項目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
退院患者数	12,079 人	12,274 人	12,473 人	
退院先	自宅	10,499 人	10,629 人	10,764 人
	対退院患者数割合	87.0%	86.6%	86.3%
	転院	921 人	991 人	948 人
	対退院患者数割合	7.6%	8.1%	7.6%
	施設	246 人	232 人	313 人
	対退院患者数割合	2.0%	1.9%	2.5%
死亡	413 人	422 人	448 人	
対退院患者数割合	3.4%	3.4%	3.6%	
介護支援連携指導	352 件	347 件	575 件	
地域連携カンファレンス (退院時共同指導)	63 件	94 件	163 件	



(4) 周産期医療・小児医療への対応（女性医療を含む）

①周産期医療

医療圏における出生数は減少傾向であるが、平成 27 年の出生率は人口千対 8.4 で、岡山県より 0.3 ポイント高くなっており、周産期死亡率も長期的に低下傾向である。

当院における分娩数は、病院新館建築による周産期機能の充実と相俟って、徐々に件数が増加しつつあるが、一方で小児科入院を必要とする新生児が増えていく可能性もあり、今後、地域周産期母子医療センターとして、ハイリスク妊娠・分娩を含む周産期機能の強化に取り組むとともに、地域医療機関との連携を強化していく。

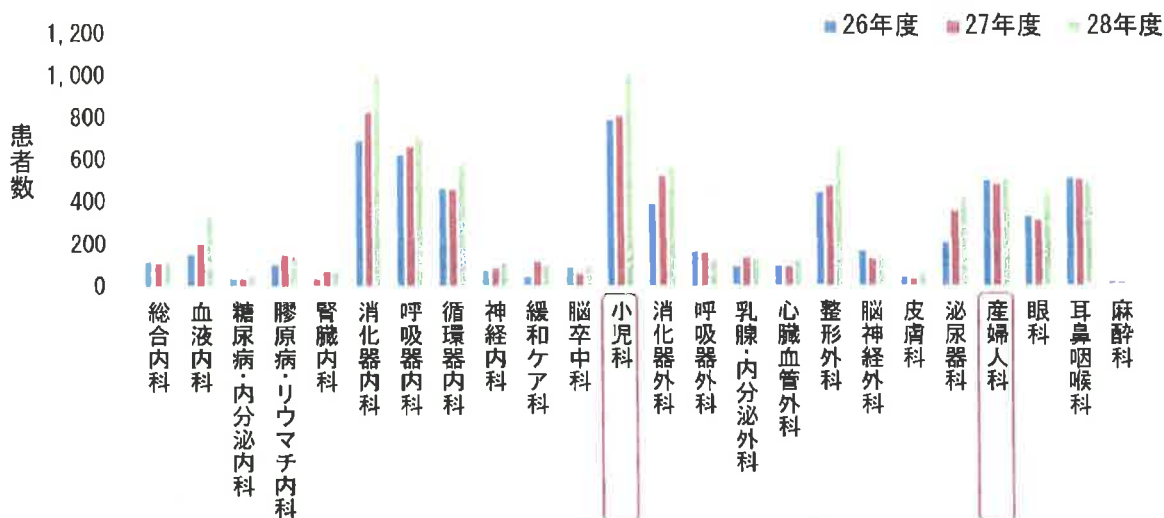
②小児医療（小児救急医療を含む）への対応

当院は小児救急医療支援病院に指定されており、また、救命救急センターでもあるため、小児科の外来・入院患者とともに当院患者数に占める割合は高い。

救急外来における時間外選定療養費の影響からか、平成 28 年度には救急からの入院患者数は減少したが、紹介入院患者数は急激に増加している。

多くの疾患は急性発熱患者であるが、将来的なワクチンの普及により感染症患者の減少が予想されるため、今後は慢性疾患の紹介患者の受け入れ増加を図っていく。

紹介からの入院患者数（科別）



（資料：厚生労働省提出 DPC データ（様式 1））

③女性医療への対応

当院は婦人科領域における紹介入院患者も多く、地域がん診療連携拠点病院でもあることから、悪性疾患の手術や化学療法を積極的に行っており、今後も地域医療機関との連携を強化しつつ、効率的、かつ効果的な診療を行っていく。

婦人科 DPC 上位疾患（平成 27 年度）	患者数	平均 在院日数 （自院）	平均 在院日数 （全国）	転院率	平均年齢
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4 あり 定義副傷病 なし	116	2.62	5.11	0	67.91
卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 5 あり 定義副傷病 なし	68	3.1	5.17	0	63.15
子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 4 あり 定義副傷病 なし	35	4	5.33	0	65.97

(5) 精神疾患への対応

当院は、岡山市の認知症疾患医療センターの指定を受けており、精神神経科による認知症の鑑別診断等専門医療を行うとともに、患者・家族への介護サービス情報の提供・相談対応をしており、また、多職種による認知症ケアチームもサポート活動を行っている。

さらに、救命救急センター等からの入院患者に関わる機会も増加しているため、院内の診療体制を充実させる必要がある。

なお、岡山県内の「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ以上の人の推計では、平成 27 年度の約 68,000 人から平成 37 年度には約 87,000 人まで増加すると見込まれており、地域包括支援センターや地域の医療機関との連携を強化することで、地域包括ケアシステムにおける当院の役割を明確にし、システムの構築推進及び円滑な運用に協力していく。

・救急患者等への対応に関する指標（関連する診療報酬）

	精神疾患診療体制加算 2	救急患者の入院 3 日以内における入院精神療法	救急患者の入院 3 日以内における救命救急入院料の注 2 に規定する加算
平成 27 年度	—	2	3
平成 28 年度	15	14	17

・認知症疾患医療センターの主な地域活動

- ①一般対象の物忘れ相談会（月 1 回 地域包括支援センターで開催）
- ②認知症サポート医養成研修・かかりつけ医研修
- ③一般対象の研修会、講演会

(6) 災害時における医療

当院は、岡山県の基幹災害拠点病院であると同時に、災害救護事業を担う日本赤十字社の医療施設であることから、災害時における医療への対応は当院の大切な役割と言える。

今後、発生が予測される南海トラフを震源とする巨大地震においては、岡山県の人的物的被害への対応を行いつつ、さらに甚大な被害が想定される四国地方への後方支援基地機能も重要と考えられるため、これまでに培ってきた災害医療の経験や実績を基盤とし、スタッフ・設備・装備等あらゆる面で体制を整えていく必要がある。

また、これら災害時における機能は、当院のみが運用するのではなく、広く他の医療機関等と連携・協力していくことが重要であると考えているので、基幹災害拠点病院として岡山県の災害医療全体を考慮に入れて今後も必要な活動を行っていく。

## 2 今後持つべき病床機能

現在、当院の病床機能は「高度急性期」及び「急性期」機能としているが、今後持つべき病床機能については、県南東部保健医療圏における地域医療構想の将来的な見通しを踏まえたうえで、当院がこれまで行ってきた急性期医療分野における診療実績や長年にわたって培い、蓄積された経験を十分に活用できる病床機能を保有していきたいと考えている。

特に、救命救急センターとしての機能は急性期医療を象徴する機能であり、当院としては今後も地域医療構想のなかで担うべき役割であると考えているが、この機能を安定的に保持していくためには、一定規模、かつ必要十分なレベルの病床機能と診療機能を維持する必要がある。

また、地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院として、地域の医療機関とともに構築してきた当院の高度・専門的な治療をスムーズに提供するための重層的なネットワークは、地域医療構想の進捗状況や実情に合わせて、同構想に謳われている「医療機能の役割分担と連携」の推進に貢献できるのではないかと考えおり、とりわけ、当院が保有する独立型緩和ケア病棟の機能である「患者や家族の要望に沿った在宅療養への柔軟な対応」は、医療機関等が相互に連携することで成り立つケアの特徴的な体制と言える。

さらに、団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年に向けて、地域包括ケアシステムの構築が進められているが、急性期病院である当院が貢献できる分野として、急性期の事態が生じた時に入院や通院の受け入れを行うだけでなく、高度急性期、急性期機能を持つ病院ならではの知識や技術を在宅医療や介護を担う事業所や施設に研修等の機会を通じて提供することが、地域包括ケアシステム構築の促進に繋がるものと考えている。

## 3 その他見直すべき点

現段階で、具体的な病床機能再編等の検討は行っていないものの、地域医療構想で示された将来的な環境の変化を見据え、かつ地域の実情等に十分配慮したうえで、バランスの取れた医療提供体制の構築に協力することが重要と考えるが、同時に、当院が担う公的医療機関としての役割と事業運営にとっても病床機能及び病院機能が最適なレベルとなるよう今後の対応を検討する必要がある。

特に、今後策定されるであろう第 8 次岡山県保健医療計画（平成 30 年度～平成 35 年度）における県南東部保健医療圏地域保健医療計画のなかでも、地域住民、ひいては県民にとって、当院の医療機能が遺憾なく発揮できるよう体制を整備・強化していきたいと考えている。

#### IV. 具体的な計画

##### 1 4機能ごとの病床のあり方について

###### <今後の方針>

高度急性期・急性期病院として、現在の医療提供体制を維持していく。

	現在 (平成28年度病床機能報告)		将来 (2025年度)
高度急性期	299床	→	299床
急性期	201床		201床
回復期	—		—
慢性期	—		—
(合計)	500床		500床

###### <スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定 (本プラン策定)	<div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                     集中的な検討を促進 2年間程度で                 </div> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         第6期岡山県高齢者 保健福祉計画・介護 保険事業支援計画                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         岡山県第7次 保健医療計画                     </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                         第7期岡山県高齢者 保健福祉計画・介護 保険事業支援計画                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">                         岡山県第8次保健医療計画                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                         第8期岡山県高齢者 保健福祉計画・介護 保険事業支援計画                     </div> </div>
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○地域医療構想調整会議において自施設の病床のあり方の合意を得る。	
2019~2020年度			
2021~2023年度			

##### 2 診療科の見直しについて

現時点で見直しの予定なし。

### 3 その他の数値目標について

当院では、基本方針に基づき、中長期計画の目標を以下のとおり定めているが、様々な状況変化に応じ、より高次のレベルを目指して逐次調整を行う予定である。

1. 患者さまの権利と意見を尊重し、十分な説明と同意に基づいた患者さま中心の医療を実践します。	目 標	
待ち時間の短縮 ア. 外来患者予約率の向上	予約率 平日 8:30~17:00 (救外除)	95.0%

2. 地域の中核病院として、高度で安全な急性期医療の提供に努めます。	目 標	
病床稼働率の維持		86.0%

3. 地域医療機関等との連携を密にし、患者さまに適した医療を提供します。	目 標	
地域医療支援病院の維持	紹介率 逆紹介率	60.0% 90.0%

4. 救命救急センター、がん診療連携拠点病院としての機能の充実に努めます。	目 標	
① 救命救急センター ICUの効率的運用	ICU稼働率	95.0%
② がん診療連携拠点病院 ア. 外来化学療法件数の増加 イ. 緩和ケア病棟の活用 ウ. 放射線治療室の活用 エ. がん手術件数の増加 オ. がん診療新入院患者数の増加	外来化学療法数(人数) 緩和ケア病棟稼働率 放射線治療件数 がん手術件数 がん診療新入院患者数	4,500件 80.0% 6,000件 900件 2,900人

5. 災害に対応した医療救護活動を積極的に行います。	目 標	
基幹災害拠点病院 救護班要員のレベルアップ 研修受講率の向上	基礎研修 心のケア研修 実践研修 職種別研修	100.0% 100.0% 100.0% 100.0%

6. 優秀な人材を確保し、次代を担う人材の育成に努めます。	目 標	
研修プログラムを充実させ医師の確保を図る	初期研修医の確保 後期研修医の確保	14人 10人

7. 良質な医療活動を遂行するため、医療施策に沿って健全な病院運営に努めます。	目 標	
① 手術室の効率的運用と手術件数増加を図る	手術件数	6,000件
② 地域連携パスの利用	5大がん、肝炎、脳卒中、心筋梗塞 大腿骨、糖尿病 地域連携パス利用件数	250件

8. 岡山県地域医療介護総合確保基金の活用	目 標	
地域医療介護総合確保基金の対象事業は次の5つである。	災害時医療従事者養成確保事業	
1 地域医療構想の達成に向けた医療機関の施設又は設備の整備に関する事業	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="font-size: 2em; margin-right: 5px;">{</div> <div style="text-align: center;">           岡山県単独による DMAT 養成事業を            県から受託し、当院で養成講習を実施         </div> <div style="font-size: 2em; margin-left: 5px;">}</div> <div style="margin-left: 10px;">30名</div> </div>	
2 居宅等における医療の提供に関する事業		
3 介護施設等の整備に関する事業		
4 医療従事者の確保に関する事業		
5 介護従事者の確保に関する事業		
	※平成27年度・平成28年度と実施済	
	※上記事業の他、地域医療構想の達成に向けた事業等の計画・実施に際しては、同基金の積極的な活用を目指す。	

## VI その他

### 病院機能に関する参考資料

#### <救急医療> 救命救急センターの現況について（充実段階：A評価）

##### （1）人員・施設等

（資料：平成28年度救命救急センターの充実段階評価における現況調査）

項目	内容
医師、看護師	専任医師：13名、専任看護師：96名（平成29年3月1日現在）
運営病床	総数：81床
施設・設備等	診察室：12室、手術室：緊急1室・一般1室、緊急検査室：1室 放射線撮影室：1室、心電図受診装置、重症熱傷患者用備品：有

##### （2）診療体制等

項目	内容
内因性疾患への診療体制	循環器疾患、脳神経疾患又は消化管出血を疑う患者が搬送された時に、救命救急センター専従医師が診察を行い、診療を依頼された循環器科、脳神経科、消化器科の全てが迅速に診療できる。
外因性疾患への診療体制	外傷を疑う患者が搬送された時に、救命救急センター専従医師が診察を行い、診療を依頼された、一般外科、脳神経外科、整形外科の全てが迅速に診療できる。
精神科医による診療体制	精神的疾患を伴う患者が搬送された時に、救命救急センターの医師が、いつでも精神科医に相談できる。
小児（外）科医による診療体制	小児患者（患児）が搬送された時に、院内の小児科医が常時直接診察するか、救命救急センターの医師が小児科医に常時相談できる体制になっているとともに、小児の救命救急医療に必要な機器等が整備されている。
産（婦人）科医による診療体制	産（婦人）科医に関する患者が搬送された時に、院内の産（婦人）科医が常時直接診察するか、救命救急センターの医師が産（婦人）科医に常時相談できる。
手術室の体制	常時、麻酔科の医師及び手術室の看護師が院内で待機しており、緊急手術が必要な患者が搬送された際に、直ちに手術が可能な体制が整っている。



(3) 関連する実績の推移

項目	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
救急外来受診者数	28,941	26,175	26,700	24,653
救急車搬入患者数	4,367	4,227	4,443	4,384
救急入院患者数	4,302	4,435	4,489	4,660
ヘリコプター収容回数	31	17	22	23
緊急手術	1,318	1,318	1,367	1,321

(4) 当院来院時の重篤患者について (平成 28 年度)

疾病名	基準	患者数
1 病院外心停止	病院への搬送中に自己心拍が再開した患者及び外来で死亡を確認した患者を含む	105
2 重症急性冠症候群	切迫心筋梗塞又は急性心筋梗塞と診断された患者若しくは緊急冠動脈カテーテルによる検査又は治療を行った患者	99
3 重症大動脈疾患	急性大動脈解離又は大動脈瘤破裂と診断された患者	9
4 重症脳血管障害	来院時 JCS100 以上であった患者、開頭術、血管内手術を施行された患者又は tPA 療法を施行された患者	83
5 重症外傷	MaxAIS が 3 以上であった患者又は緊急手術が行われた患者	258
6 重症熱傷	Artz の基準により重症とされた患者	6
7 重症急性中毒	来院時 JCS100 以上であった患者又は血液浄化法を施行された患者	4
8 重症消化管出血	緊急内視鏡による止血術	34
9 重症肺血症	感染性 SIRS で臓器不全、組織低灌流又は低血圧を呈した患者	27
10 重症体温異常	熱中症又は偶発性低体温症で臓器不全を呈した患者	10
11 特殊感染症	ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等と診断された患者	0
12 重症呼吸不全	呼吸不全により、人工呼吸器を使用した患者 (1~11 を除く)	27
13 重症急性心不全	急性心不全により、人工呼吸器を使用した患者又は Swan-Ganz カテーテル、PCPS 若しくは IABP を使用した患者 (1~11 までを除く)	11
14 重症出血性ショック	24 時間以内に 10 単位以上の輸血が必要であった患者 (1~11 までを除く)	4

15	重症意識障害	来院時 JCS100 以上の状態が 24 時間以上持続した患者（1～11 までを除く）	37
16	重篤な肝不全	肝不全により、血液浄化療法を施行された患者（1～11 までを除く）	1
17	重篤な腎不全	急性じん不全により、血液浄化療法を施行された患者（1～11 までを除く）	19
18	その他重症病態	重症肺炎、内分泌クリーゼ、溶血性尿毒症性症候群に対して持続動注療法、血漿交換又は手術療法を施行された患者（1～17 までを除く）	0
合計			734

（5）救急医療の教育機能（平成 28 年度）

項目	人数
救命救急士の病院実習受入状況	5
臨床研修医の受入状況	36

<災害医療> 災害医療体制について

・災害対応要員（被災地派遣等に係る人員）

平成 28 年度編成		医師	看護師	コメディカル	ロジ
DMAT	3 チーム	5 人	9 人	1 人	6 人
医療救護班	8 個班	8 人	24 人	5 人	11 人

・災害救護装備、資材（所有：日本赤十字社岡山県支部 保管：当院敷地内他）

品名		数量	品名	数量
多目的救急車		1	携帯用医療セット	5
マイクロ型救急車		6	新医療セット	4
ドクターズカー		1	医師用カバン	4
通信指令車		1	看護師用カバン	14
災害救援車資機材運搬車		1	自動蘇生器	5
災害救援車 トラック		1	人工呼吸器	7
災害救援車 マイクロ型		1	パナバック	5
災害救援車 バン型		1	マジックギプス	6
バンフルトレーラ		2	セントラル湿潤器	10
無線設備 150MHz	基地局	2	AED	9
	固定局	3	発電機	11
	移動局	4	投光機	5
	移動局	70	救護員作業着一式	400
無線設備 400MHz	基地局	1	雨具	160
	移動局	32	防寒着	292
小電力無線機		59	ヘルメット	105
アマチュア無線基地		1	安全靴	530
アマチュア無線		8	ボランティア用作業服	794
衛星携帯電話		4	※DMAT 用資機材と兼用	
テント各種		25		
担架		63		
折りたたみ寝台		252		

※更新等による変動あり。

・地域住民等への救援物資備蓄（所有：日本赤十字社岡山県支部 保管：当院敷地内他）

品名	数量
毛布	4,771
バスタオル	6,760
安眠セット	300
緊急セット	2,100
日用品セット	770

※更新等による変動あり。

<周産期医療> 地域周産期母子医療センターについて（平成27年1月～12月31日）

（1）人員・施設等

（資料：平成28年度岡山県周産期医療体制に係る調査）

項目	内容		
スタッフ ※平成28年1月1日時点	産科医	8名	非常勤2名含む
	新生児担当医	8名	小児科医の兼任で8名
	麻酔科医	14名	
	NICU/GCU看護師	18名	常勤換算
	産科看護師	18名	常勤換算
	助産師	24.8名	常勤換算
	ソーシャルワーカー	7名	
運営病床	MFICU：2床、NICU：5床、GCU：5床、産科病床：20床 ※NICU・GCU以外の新生児収容可能病床：10床有		
車両（ドクターカー）	母体 1台 搬送件数3回（年間） 新生児 1台 搬送件数8回（年間）		

（2）産科診療内容

総分娩数					251件
正期産数	209件	早産	42件	過期産数	0件
経膣分娩数	176件		帝王切開数	75件	
妊娠22週以降の死産数	2件		2500g未満の児	50件	
生後7日以内の新生児死亡	0件		周産期死亡数	0件	
妊産婦死亡	0件				

（3）ハイリスク合併症（自施設で最終決着した症例のみ）

ハイリスク分娩数	産科DIC	1件
	深部静脈血栓症・肺塞栓症	1件
	常位胎盤早期剥離	4件
	前置胎盤・前置癒着胎盤	1件
	多胎妊娠	4件
	弛緩性出血	9件

（4）医療連携の状況

他施設等からの母体搬送受入状況	搬送元	受入数		
	県内周産期母子医療センター	31件		
他施設への母体送り出し状況	県内周産期センター	3件		
他施設等からの新生児搬送受入状況	搬送元	受入数	出迎え数（再掲）	
	県内周産期母子医療センター	1件	0件	
	県内病院・診療所	17件	8件	
	戻り搬送	3件	三角搬送	5件
他施設への新生児送り出し状況	県内周産期センター	1件		
	その他	2件		
NICU退院後の受入先	退院者数	21名		
	GCU	20名		
	その他	1名		

(5) 県南東部医療圏の周産期母子医療センターの状況 (平成28年1月1日現在)

	MFICU 病床数	NICU 病床数	GCU 病床数	ドクターカー	年間搬送件数	
					母体	新生児
岡山医療センター	6床	18床	22床	1台	24件	112件
スタッフ数	産科医：8.7人、新生児担当医：8.8人（うち、小児科兼任0人）、麻酔科医：8.9人 NICU・GCU看護師：70.7人、産科看護師：10.0人、助産師：43.2人					
岡山大学病院	0床	6床	6床	0台	0件	0件
スタッフ数	産科医：32.0人、新生児担当医：7.0人（うち、小児科兼任0人）、麻酔科医：16.8人 NICU・GCU看護師：19.0人、産科看護師：5.0人、助産師20.0人					
岡山赤十字病院	2床	5床	11床	1台	3件	8件
スタッフ数	産科医：8.0人、新生児担当医：8.0人（うち、小児科兼任8人）、麻酔科医：14.0人 NICU・GCU看護師：18.0人、産科看護師：18.0人、助産師：24.8人					

(6) 県南東部医療圏の周産期母子医療センターのハイリスク分娩の状況 (件)

	ハイリスク分娩数							在胎不当 軽量児 SGA
	産科DIC	羊水塞栓	深部静脈 血栓症・ 塞栓症	痙攣・ 脳出血	常位胎盤 早期剥離	前置胎盤・ 前置癒着 胎盤	多胎妊娠	
岡山医療 センター	4	0	0	0	6	11	35	25
岡山 大学病院	13	0	3	0	2	4	14	44
岡山 赤十字病院	1	0	1	0	4	1	5	7

<小児医療> 小児患者の受け入れ状況について（救急外来を含む）

小児救急医療支援病院に指定されており、救急外来では地域の開業小児科医が準夜帯の診療に参加している。

・小児科の診療実績

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
退院患者数	1,341 人	1,406 人	1,287 人
（同延べ数）	7,984 人	8,780 人	7,943 人
新生児患者数	104 人	151 人	134 人
（同延べ数）	1,680 人	1,987 人	1,403 人
NICU 患者数	19 人	23 人	27 人
（同延べ数）	528 人	431 人	679 人
外来患者数	15,774 人	16,075 人	14,937 人
（時間外）	6,338 人	6,145 人	5,818 人
平均在院日数	4.9 日	5.1 日	4.8 日
紹介率	60.8%	59.0%	64.0%
逆紹介数	1,063 件	1,013 件	727 件

<在宅医療> 在宅医療への貢献（当院看護師）

<p>・褥瘡ケア等専門領域の訪問</p> <p>特養等の在宅領域における褥瘡患者に対し、皮膚・排泄ケア認定看護師が月当たり 3～4 回の訪問を行い、褥瘡評価・ケアを行っている。 また、ストーマ造設後のケアに関しても必要に応じて訪問を行っている。</p>
<p>・周産期領域の訪問</p> <p>退院後の生活や育児の状態等、新生児の退院後のサポートも含めて、助産師と地域医療連携室の看護師が産後訪問、新生児訪問を行っている。</p>
<p>・退院前・退院時の同行訪問</p> <p>患者の退院後の生活をサポートするため、住居の状況、生活状況等を把握し、在宅で療養を続けることができるように、退院前・退院時の同行訪問を行っている。 緩和ケア領域では、訪問看護ステーションとの連携による訪問も行っている。</p>
<p>・小児救急への対応</p> <p>岡山県看護協会からの依頼により、「小児救急医療費適正受診啓発事業出前講座」として、地域の就学前の親子（親子クラブ等）を対象とした出前講座を行っている。</p>
<p>・在宅ケアアドバイザー派遣事業への協力</p> <p>岡山県看護協会の活動である「在宅ケアアドバイザー派遣事業」への協力として、がん看護、救急看護、緩和ケア、感染管理、糖尿病看護、皮膚・排泄ケア等の専門、認定看護師を派遣協力している。</p>

<チーム医療の推進>

チームは共通の目的・到達目標・手段に合意し、その達成のために責任を分担する相互補完的な技能を持つプロフェSSIONナルにより構成されており、「チーム医療」においては、その構成メンバー一人ひとりが高い専門性を発揮しながら、これをチームの中で再統合するという行為によって『いかにすれば患者により良質の医療を提供することができるか』という共通の課題に取り組んでいる。

チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡対策</li> <li>・感染対策</li> <li>・栄養サポート</li> <li>・緩和ケア</li> <li>・摂食嚥下</li> <li>・化学療法</li> <li>・禁煙サポート</li> <li>・心臓リハビリテーション</li> <li>・医療安全対策</li> <li>・院内救急対策</li> <li>・認知症ケア</li> <li>・患者サービス 他</li> </ul>
-----	--

<医療安全に関する取り組み>

医療安全	<p>医療安全推進室は組織横断的に安全管理体制を構築することを目的として設置されており、医療安全推進室長、医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、医療事故紛争担当者、医療安全室事務員で構成されている。</p> <p>医療安全管理者は専従で、平時はインシデント、アクシデント報告に対する対応、医療安全に関する現場の実態調査と予防活動の取り組み、医療安全に関する情報管理及び情報発信への取り組み、医療安全のための教育研修の企画・運営・評価を行っている。</p> <p>医療安全推進委員会が院長の諮問委員会として設置され、毎月1回開催し、提出されたインシデント・アクシデントレポートの分析検討や事故防止対策の周知徹底と対策の妥当性を検証するとともに、その他の医療事故防止に関する事項について適宜審議し、マニュアルの改訂や年間研修計画を企画、実施している。</p>
感染対策	<p>感染管理の目的は、患者やその家族及び医療施設に従事するすべての人々を院内感染から守ることであり、病院という組織の中で、様々な職種・部門と連携をしながら ICT（感染対策チーム）回診や院内感染サーベイランス、感染対策マニュアルの整備等の活動を行っている。</p> <p>当院では、2001年感染対策委員会の小委員会として ICT が発足し、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師のチームで、薬剤部・微生物検査からの情報を基に1回/週の ICT 回診を行っており、回診の対象は、耐性菌新規検出者・抗 MRSA 薬使用事例・血液培養陽性事例である。回診では、抗 MRSA 薬の血中濃度データの確認、用法・容量などについての助言を行い、現場の看護師に実施している感染対策について確認を行っている。</p>

<保健医療従事者の確保> 看護師の養成

本校は、昭和10年に日本赤十字社岡山支部病院救護看護婦養成所として開設されて以来、戦前から戦後の歴史を経て、現在までの卒業生は2200名を超えているが、ほとんどの卒業生は、隣接の岡山赤十字病院に就職して経験を積み、各種認定看護師などの資格を取得しながら各部署で活躍している。

・平成28年度の状況

養成定員	120名
学生数	1年生：44名 2年生：40名 3年生：42名



岡山赤十字病院

公的医療機関等 2025 プラン

平成 29 年 9 月



岡山赤十字病院

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society